



## show call history fax ~ show debug condition

---

- show call history fax (3 ページ)
- show call history media (14 ページ)
- show call history stats (24 ページ)
- show call history video (33 ページ)
- show call history video record (35 ページ)
- show call history voice (36 ページ)
- show call history watermark connected table (43 ページ)
- show call language voice (45 ページ)
- show call leg (47 ページ)
- show call media forking (53 ページ)
- show callmon (54 ページ)
- show call prompt-mem-usage (56 ページ)
- show call resource voice stats (59 ページ)
- show call resource voice threshold (61 ページ)
- show call rsvp-sync conf (63 ページ)
- show call rsvp-sync stats (65 ページ)
- show call spike status (67 ページ)
- show call threshold (69 ページ)
- show call treatment (72 ページ)
- show call-router routes (75 ページ)
- show call-router status (77 ページ)
- show ccm-manager (80 ページ)
- show cdapi (91 ページ)
- show ces clock-select (93 ページ)
- show connect (94 ページ)
- show controllers rs366 (96 ページ)
- show controllers timeslots (98 ページ)
- show controllers voice (100 ページ)
- show crm (104 ページ)

- [show csm \(106 ページ\)](#)
- [show csm call \(115 ページ\)](#)
- [show cube debug category codes \(117 ページ\)](#)
- [show cube status \(118 ページ\)](#)
- [show debug condition \(121 ページ\)](#)

## show call history fax

ファクス送信のコール履歴テーブルを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show call history fax** コマンドを使用します。

```
show call history fax [{brief [id identifier]|compact [duration {less|more} time]|id identifier
|last number}]
```

構文の説明	
<b>brief</b>	(任意) 簡略版のコール履歴テーブルを表示します。
<b>id identifier</b>	(任意) 指定した識別子を持つコールのみを表示します。範囲は 1 ~ FFFF の 16 進値です。
<b>compact</b>	(任意) 要約版を表示します。
<b>duration time</b>	(任意) 指定した <i>time</i> 値よりも長いまたは短いコールの履歴情報を表示します。引数およびキーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>less -- time</b> 引数の値より短いコールを表示します。</li> <li>• <b>more -- time</b> 引数の値よりも長いコールを表示します。</li> <li>• <b>time --</b> 経過時間 (秒単位)。範囲は 1 ~ 2147483647 です。</li> </ul>
<b>last number</b>	(任意) 直近の接続済みコールを表示します。表示するコール数は、 <i>number</i> 引数によって定義できます。範囲は 1 ~ 100 です。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
	12.0(3)XG	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの Voice over Frame Relay (VoFR) に導入されました。
	12.0(4)XJ	このコマンドは、ストアアンドフォワードファクス用に変更されました。
	12.0(4)T	このコマンドが変更されました。キーワード <b>brief</b> が追加され、このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。
	12.0(7)XK	このコマンドが変更されました。キーワード <b>brief</b> が Cisco MC3810 に導入されました。
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
	12.1(5)XM	このコマンドが Cisco AS5800 に導入されました。

リリース	変更内容
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(2)XA	このコマンドが変更されました。このコマンドの出力が変更され、対象のコールの確立に Annex E が用いられたかどうかが表示されるようになりました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でのサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、Cisco AS5850 に導入されました。
12.3(1)	このコマンドが変更されました。FaxRelayMaxJitterBufDepth フィールド、FaxRelayJitterBufOverflow フィールド、FaxRelayHSmodulation フィールドおよび FaxRelayNumberOfPages フィールドが追加されました。
12.3(14)T	このコマンドが変更されました。T.38 ファクスリレーコールの統計情報が、ベンダー固有の属性 (VSA) を介してコール詳細レコード (CDR) で利用できるようになり、コールログに追加されました。
12.4(15)T	このコマンドが変更されました。コマンド出力内の TELE コールレグレコードに、表示フィールド Port および BearerChannel が追加されました。
12.4(16)	このコマンドが変更されました。コマンド出力内の TELE コールレグレコードに、表示フィールド Port および BearerChannel が追加されました。
12.4(22)T	このコマンドが変更されました。コマンド出力が更新され、IPv6 情報が表示されるようになりました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、コール履歴テーブルに、当該ルータ経由で接続されたファクスコールを時間降順で一覧表示できます。グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-control-mib** コマンドを使用すると、当該テーブルに含めるコールの最大数を 0 ~ 500 のいずれかの値に設定できます。デフォルトでは、テーブルに含める最大エントリ数は 50 に設定されています。各コールレコードは、同じく **dial-control-mib** コマンドで指定した分数 (設定可能) が経過すると、期限切れとなりテーブルから消去されます。このタイマーのデフォルト値は 15 分です。

特定のキーワードを使用すると、コール履歴テーブルのサブセットを表示できます。このルータを介して接続された直近のコールを表示するには、キーワード **last** を使用して、表示するコール数を **number** 引数で指定します。

コール履歴テーブルの簡略版を表示するには、キーワード **brief** を使用します。

このコマンドは、オンランプとオフランプの両方のストアアンドフォワードファクス機能に適用されます。

## 例

次に、**show call history fax** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call history fax
Telephony call-legs: 1
SIP call-legs: 0
H323 call-legs: 0
MGCP call-legs: 0
Total call-legs: 1
GENERIC:
SetupTime=590180 ms
Index=2
PeerAddress=4085452930
PeerSubAddress=
PeerId=81
PeerIfIndex=221
LogicalIfIndex=145
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=59389
DisconnectTime=68204
CallDuration=00:01:28
CallOrigin=2
ReleaseSource=1
ChargedUnits=0
InfoType=fax
TransmitPackets=295
TransmitBytes=5292
ReceivePackets=2967
ReceiveBytes=82110
TELE:
ConnectionId=[0xD9ACDFF1 0x9F5D11D7 0x8002CF18 0xB9C3632]
IncomingConnectionId=[0xD9ACDFF1 0x9F5D11D7 0x8002CF18 0xB9C3632]
CallID=2
Port=3/0/0 (2)
BearerChannel=3/0/0.1
TxDuration=28960 ms
VoiceTxDuration=0 ms
FaxTxDuration=28960 ms
FaxRate=voice bps
FaxRelayMaxJitterBufDepth = 0 ms
FaxRelayJitterBufOverflow = 0
FaxRelayHSmodulation = 0
FaxRelayNumberOfPages = 0
NoiseLevel=-120
ACOMLevel=127
SessionTarget=
ImgPages=0
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=4085550130
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=52930
OriginalCalledOctet=0xE9
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0xFF
TranslatedCallingNumber=4085550130
TranslatedCallingOctet=0x0
TranslatedCalledNumber=52930
```

```

TranslatedCalledOctet=0xE9
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwReceivedCalledNumber=52930
GwReceivedCalledOctet3=0xE9
GwReceivedCallingNumber=4085550130
GwReceivedCallingOctet3=0x0
GwReceivedCallingOctet3a=0x80

```

次の表に、**show call history fax** コマンド出力に表示される各種フィールドの一覧（アルファベット順）と、各フィールドの説明を示します。

表 1: show call history fax のフィールドの説明

フィールド	説明
ACOM Level	当該コールの現在の ACOM レベル。ACOM は、エコーキャンセラによって実現される複合損失（つまり、当該コールのエコー反射減衰量、エコー反射減衰量拡張および非線形処理損失の合計）を示します。
BearerChannel	コールを伝送するベアラーチャネルの ID。
Buffer Drain Events	ジッターバッファドレインイベントの合計数。
Buffer Fill Events	ジッターバッファ占有イベントの合計数。
CallDuration	コールの長さ（時間、分、秒（hh:mm:ss）単位）。
CallerName	音声ポートのステーション名を示す文字列。
CallOrigin	コールオリジン（応答または発信）。
CallState	コールの現在の状態。
ChargedUnits	システム起動時以降、対象となるピアに適用される課金単位の総数。このフィールドの測定単位は 100 分の 1 秒。
CodecBytes	使用コーデックのペイロードサイズ（バイト単位）。
CoderTypeRate	ネゴシエート済みのコーダーレート。この値によって、このコールに関連付けられたコールログへの音声圧縮またはファクス圧縮の送信レートが指定されます。
ConnectionId	このゲートウェイコールのグローバルコール ID。
ConnectTime	当該コールが接続されていた時間（ミリ秒（ms）単位）。
Consecutive-packets-lost Events	連続した（2 つ以上の）パケット損失イベントの合計数。
Corrected packet-loss Events	RFC 2198 メソッドを使用して修正されたパケット損失イベントの合計数。

フィールド	説明
Dial-Peer	このコールを送信するダイヤルピアのタグ。
DisconnectCause	このコールの接続が解除された理由を示す原因コード。
DisconnectText	接続解除の理由を示す説明文。
DisconnectTime	このコールの接続が解除されていた時間（ミリ秒単位）。
EchoCancellerMaxReflector=64	最大リフレクターの位置（ミリ秒単位）。リフレクタのサイズは、設定したエコーパス容量を超えません。たとえば 32 ミリ秒に設定されている場合、リフレクタは 32 ミリ秒を超えて報告しません。
ERLLevel	このコールの現在のエコー反射減衰量（ERL）レベル。
FaxTxDuration	このコールのこのピアから音声ゲートウェイへのファクス送信の時間。FaxTxDuration の値を TxDuration の値で割ることにより、そのファクスの使用率を導き出すことができます。
FaxRelayJitterBufOverflow	ネットワーク ジッターバッファ オーバーフローの数（パケット数）。このパケット数は、損失パケット数に相当します。
FaxRelayMaxJitterBufDepth	ジッターバッファの最大深さ（ミリ秒単位）。
FaxRelayHSmodulation	直近で使用された高速変調。
FaxRelayNumberOfPages	送信ページ数。
GapFillWithInterpolation	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、時間的に前後するデータのパラメータまたはサンプルから合成された信号を使って音声信号が再生された時間。
GapFillWithRedundancy	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、利用可能な冗長性パラメータから合成された信号を使って音声信号が再生された時間。
GapFillWithPrediction	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、時間的に先行するデータのパラメータまたはサンプルから合成された信号を使ってその音声信号が再生された時間。このようなプリアウトの例には、G.729 および G.723.1 圧縮アルゴリズムでのフレーム消去方式やフレーム隠蔽方式が挙げられます。
GapFillWithSilence	音声データが失われたか、当該コールの時間内に受信されなかったことが原因で、音声信号が無音に置き換えられた時間。

フィールド	説明
GENERIC	汎用パラメータまたは共通パラメータ（つまり VoIP コールレグおよびテレフォニーコールレグに共通のパラメータ）。
GwReceivedCalledNumber、 GwReceivedCalledOctet3、 GwReceivedCallingNumber、 GwReceivedCallingOctet3、 GwReceivedCallingOctet3a	ゲートウェイで受信したコール情報。
H323 call-legs	コールレコードが利用可能な H.323 コールレグの合計数。
HiWaterPlayoutDelay	当該コール中における最高水準音声の再生 FIFO 遅延。
ImgPages	処理されたファクスページ数。
Incoming ConnectionId	incoming_GUID。long_pound 機能または blast_call 機能が関与している場合、ConnectionId (GUID) とは異なる場合があります。この場合、incoming_GUID は生成されたすべてのサブコールに共通した一意の ID となり、GUID はサブコールごとに異なります。
Index	ダイヤルピア識別番号。
InfoActivity	このコールのアクティブ情報転送アクティビティ状態。
InfoType	このコールの情報タイプ。たとえば、音声またはファクスなど。
InSignalLevel	このコールで使用されるテレフォニー インターフェイスからのアクティブな入力信号レベル。
Last Buffer Drain/Fill Event	前回のジッター バッファ ドレイン イベントまたはジッター バッファ 占有 イベントからの経過時間（秒単位）。
Local UUID	発信元のユーザーエージェントから生成された一意の識別子。
LogicalIfIndex	このコールにおける論理インターフェイスのインデックス番号。
LoWaterPlayoutDelay	当該コール中における最低水準音声の再生 FIFO 遅延。
LowerIFName	物理下位インターフェイスの情報。メディアが ATM、フレームリレー (FR) またはハイレベルデータリンク コントロール (HDLC) の場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
Media	コールを伝送するメディア。コールが（電話による）アクセス側を経由して伝送された場合、エントリーはTELEとなります。コールが音声ネットワーク側経由を経由して伝送された場合、エントリーはATM、FRまたはHDLCのいずれかとなります。
Modem passthrough signaling method in use	このコールがモデムパススルーであり、シグナリングコーデックのアップスピードに、名前付きシグナリングイベント（NSE）（シスコ独自版のRFC 2833 名前付き電話イベント）が使用されることを示しています。アップスピードメソッドとは、ネットワーク状態に応じてコーデックの種類や速度を動的に変更するために用いるメソッドを指します。つまり、音声コールとデータコールの両方を処理する場合はより高速なコーデックに移行し、音声トラフィックのみを処理する場合はコーデック速度を下げる場合があります。
NoiseLevel	当該コールのアクティブノイズレベル。
OnTimeRvPayout	当該コールに対して、時間通りに受信したデータからの音声再生の持続時間。アクティブ音声の合計音声再生時間は、OnTimeRvPayout 値を GapFill 値に加算することで求めることができます。
OriginalCallingNumber、 OriginalCalling Octet、 OriginalCalledNumber、 OriginalCalledOctet、 OriginalRedirectCalledNumber、 OriginalRedirectCalledOctet	発信番号、着信番号、リダイレクト番号およびオクテット3に関する元のコール情報。オクテット3とは、番号のタイプ、番号計画インジケータ、プレゼンテーションインジケータ、およびリダイレクト理由情報を含むQ.931の情報要素（IE）を指します。
OutSignalLevel	当該コールで使用されるテレフォニー インターフェイスへのアクティブな出力信号レベル。
PeerAddress	当該ピアに関連付けられた宛先パターンまたは宛先番号。
PeerId	当該コールの発信先であるピアテーブルエントリーの ID 値。
PeerIfIndex	このピアの音声ポートインデックス番号。ISDN メディアの場合は、当該コールで使用される B チャンネルのインデックス番号となります。
PeerSubAddress	当該コール接続時のサブアドレス。
Percent Packet Loss	合計パケット損失率。
Port	コールを伝送する音声ポートの識別。
ReceiveBytes	当該コール中にこのピアが受信したバイト数。

フィールド	説明
ReceiveDelay	当該音声コール中における再生 FIFO 遅延の平均値とデコーダ遅延を加算した時間。
ReceivePackets	当該コール中にこのピアが受信したパケット数。
ReleaseSource	リリース元の数値。
RemoteIPAddress	VoIP コールでのリモートシステムの IP アドレス。
RemoteUDPPort	音声パケットの送信先であるリモートシステムの User Datagram Protocol (UDP) リスナーポート。
Remote UUID	終端ユーザーエージェントから生成された一意の識別子。
RoundTripDelay	当該コールの IP バックボーン上におけるローカルシステムとリモートシステム間での音声パケットのラウンドトリップ遅延。
SelectedQoS	当該コールに選択された Resource Reservation Protocol (RSVP) の RSVP Quality of Service (QoS)。
SessionProtocol	IP バックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
SessionTarget	このコールに使用されるピアのセッションターゲット。
SetupTime	このエントリに関連付けられたコールの開始時におけるシステム稼動時間の値 (ミリ秒)。
SignalingType	このコールのシグナリングタイプ。たとえば、個別線信号方式 (CAS) または共通線信号 (CCS) などです。
SIP call-legs	コールレコードが利用可能な SIP コールレッグの合計数。
Telephony call-legs	コールレコードが利用可能なテレフォニーコールレッグの合計数。
Time between Buffer Drain/Fills	ジッターバッファドレインイベント間またはジッターバッファ占有イベント間の最小間隔および最大間隔 (秒単位)。
TranslatedCallingNumber、 TranslatedCallingOctet、 TranslatedCalledNumber、 TranslatedCalledOctet、 TranslatedRedirectCalled Number、 TranslatedRedirectCalledOctet	トランスレーション済みのコール情報。

フィールド	説明
TransmitBytes	当該コール中にこのピアが送信したバイト数。
TransmitPackets	当該コール中にこのピアが送信したパケット数。
TxDuration	通話時間メディアが TELE の場合にのみ表示されます。
VAD	このコールで音声アクティベーション検出 (VAD) が有効になっているかどうか。
VoiceTxDuration	このコールの当該ピアから音声ゲートウェイへの音声送信の持続時間。VoiceTxDuration の値を TxDuration の値で割ることで、音声使用率を導き出すことができます。

次に、**show call history fax brief** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call history fax brief
<ID>: <start>hs.<index> +<connect> +<disc> pid:<peer_id> <direction> <addr>
tx:<packets>/<bytes> rx:<packets>/<bytes> <disc-cause>(<text>)
IP <ip>:<udp> rtt:<time>ms pl:<play>/<gap>ms lost:<lost>/<early>/<late>
  delay:<last>/<min>/<max>ms <codec>
Telephony <int>: tx:<tot>/<voice>/<fax>ms <codec> noise:<lvl>dBm acom:<lvl>dBm
2   : 5996450hs.25 +-1 +3802 pid:100 Answer 408
tx:0/0 rx:0/0 1F (T30 T1 EOM timeout)
Telephony : tx:38020/38020/0ms g729r8 noise:0dBm acom:0dBm
2   : 5996752hs.26 +-1 +3500 pid:110 Originate uut1@linux2.allegro.com
tx:0/0 rx:0/0 3F (The e-mail was not sent correctly. Remote SMTP server said: 354 )
IP 14.0.0.1 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
3   : 6447851hs.27 +1111 +3616 pid:310 Originate 576341.
tx:11/14419 rx:0/0 10 (Normal connection)
Telephony : tx:36160/11110/25050ms g729r8 noise:115dBm acom:-14dBm
3   : 6447780hs.28 +1182 +4516 pid:0 Answer
tx:0/0 rx:0/0 10 (normal call clearing.)
IP 0.0.0.0 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
4   : 6464816hs.29 +1050 +3555 pid:310 Originate 576341.
tx:11/14413 rx:0/0 10 (Normal connection)
Telephony : tx:35550/10500/25050ms g729r8 noise:115dBm acom:-14dBm
4   : 6464748hs.30 +1118 +4517 pid:0 Answer
tx:0/0 rx:0/0 10 (normal call clearing.)
IP 0.0.0.0 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
5   : 6507900hs.31 +1158 +2392 pid:100 Answer 4085763413
tx:0/0 rx:3/3224 10 (Normal connection)
Telephony : tx:23920/11580/12340ms g729r8 noise:0dBm acom:0dBm
5   : 6508152hs.32 +1727 +2140 pid:110 Originate uut1@linux2.allegro.com
tx:0/2754 rx:0/0 3F (service or option not available, unspecified)
IP 14.0.0.4 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
6   : 6517176hs.33 +1079 +3571 pid:310 Originate 576341.
tx:11/14447 rx:0/0 10 (Normal connection)
Telephony : tx:35710/10790/24920ms g729r8 noise:115dBm acom:-14dBm
6   : 6517106hs.34 +1149 +4517 pid:0 Answer
tx:0/0 rx:0/0 10 (normal call clearing.)
IP 0.0.0.0 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
7   : 6567382hs.35 +1054 +3550 pid:310 Originate 576341.
tx:11/14411 rx:0/0 10 (Normal connection)
Telephony : tx:35500/10540/24960ms g729r8 noise:115dBm acom:-14dBm
7   : 6567308hs.36 +1128 +4517 pid:0 Answer
tx:0/0 rx:0/0 10 (normal call clearing.)
IP 0.0.0.0 AcceptedMime:0 DiscardedMime:0
```

次の例は、**show call history fax** コマンドで T.38 ファクスリレー統計情報を表示した場合の出力例です。

```

Router# show call history fax
Telephony call-legs: 1
SIP call-legs: 0
H323 call-legs: 0
MGCP call-legs: 0
Total call-legs: 1
GENERIC:
SetupTime=9872460 ms
Index=8
PeerAddress=41023
PeerSubAddress=
PeerId=1
PeerIfIndex=242
LogicalIfIndex=180
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=9875610 ms
DisconnectTime=9936000 ms
CallDuration=00:01:00 sec
CallOrigin=2
ReleaseSource=1
ChargedUnits=0
InfoType=fax
TransmitPackets=268
TransmitBytes=4477
ReceivePackets=1650
ReceiveBytes=66882
TELE:
ConnectionId=[0xD6635DD5 0x9FA411D8 0x8005000A 0xF4107CA0]
IncomingConnectionId=[0xD6635DD5 0x9FA411D8 0x8005000A 0xF4107CA0]
CallID=7
Port=3/0/0:0 (7)
BearerChannel=3/0/0.8
TxDuration=6170 ms
VoiceTxDuration=0 ms
FaxTxDuration=0 ms
FaxRate=disable bps
FaxRelayMaxJitterBufDepth=560 ms
FaxRelayJitterBufOverflow=0
FaxRelayMostRecentHSmodulation=V.17/short/14400
FaxRelayNumberOfPages=1
FaxRelayInitHSmodulation=V.17/long/14400
FaxRelayDirection=Transmit
FaxRelayPktLossConceal=0
FaxRelayEcmStatus=ENABLED
FaxRelayEncapProtocol=T.38 (UDPTL)
FaxRelayNsfCountryCode=Japan
FaxRelayNsfManufCode=0031B8EE80C48511DD0D0000DDDD0000DDDD0000000000000000022ED00B0A400
FaxRelayFaxSuccess=Success
NoiseLevel=0
ACOMLevel=0
SessionTarget=
ImgPages=0
CallerName=Analog 41023
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=
OriginalCallingOctet=0x80
OriginalCalledNumber=41021
OriginalCalledOctet=0xA1
OriginalRedirectCalledNumber=

```

```

OriginalRedirectCalledOctet=0xFF
TranslatedCallingNumber=41023
TranslatedCallingOctet=0x80
TranslatedCalledNumber=41021
TranslatedCalledOctet=0xA1
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwReceivedCalledNumber=41021
GwReceivedCalledOctet3=0xA1

```

下表に、上の表に示されていない各種フィールドの説明を示します。

表 2: show call history fax のフィールドの説明

フィールド	説明
FaxRelayDirection	ファクスリレーの方向。
FaxRelayEcmStatus	ファクスリレーのエラー訂正モードのステータス。
FaxRelayEncapProtocol	ファクスリレーのカプセル化プロトコル。
FaxRelayFaxSuccess	ファクスリレーの成功。
FaxRelayInitHSmodulation	ファクスリレーの初期高速変調。
FaxRelayMostRecentHSmodulation	ファクスリレーの直近の高速変調。
FaxRelayNsfCountryCode	ファクスリレーの Nonstandard facilities (NSF) 国コード。
FaxRelayNsfManufCode	ファクスリレーの NSF 製造者コード。
FaxRelayPktLossConceal	ファクスリレーのパケット損失発生。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dial-control-mib</b>	コール履歴テーブルの属性を指定します。
<b>show call active fax</b>	進行中のファクス送信のコール情報を表示します。
<b>show call active voice</b>	進行中の音声コールのコール情報を表示します。
<b>show call history voice</b>	音声コールの履歴テーブルを表示します。
<b>show dial-peer voice</b>	ダイヤルピアの設定情報を表示します。
<b>show num-exp</b>	VoIP の番号拡張の設定方法を表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

## show call history media

メディアコールのコール履歴テーブルを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show call history media** コマンドを使用します。

**show call history media** [**brief**] [**id identifier**]|**compact** [**duration {less|more} seconds**]|**last number**]

構文の説明	
<b>brief</b>	(任意) 簡略版のコール履歴テーブルを表示します。
<b>id identifier</b>	(任意) <i>identifier</i> に指定した識別子を持つコールのみを表示します。範囲は 1 ~ FFFF です。
<b>compact</b>	(任意) 要約版のコール履歴テーブルを表示します。
<b>duration</b>	(任意) 指定した期間中のコール履歴を表示します。
<b>less</b>	指定秒数よりも短い時間のコール履歴を表示します。
<b>more</b>	指定秒数よりも長い時間のコール履歴を表示します。
<i>seconds</i>	秒単位での時間。範囲は、1 ~ 2147483647 です。
<b>last number</b>	(任意) 直近の接続済みコールを表示します。表示するコール数は、 <i>number</i> 引数によって定義できます。範囲は 1 ~ 100 です。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(15)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、コール履歴テーブルに、当該ルータ経由で接続されたメディアコールを時間降順で一覧表示できます。グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-control-mib** コマンドを使用すると、当該テーブルに含めるコールの最大数を 0 ~ 500 のいずれかの値に設定できます。デフォルトでは、テーブルに含める最大エントリ数は 50 に設定されています。各コールレコードは、同じく **dial-control-mib** コマンドで指定した分数（設定可能）が経過すると、期限切れとなりテーブルから消去されます。このタイマーのデフォルト値は 15 分です。

特定のキーワードを使用すると、コール履歴テーブルのサブセットを表示できます。このルータを介して接続された直近のコールを表示するには、キーワード **last** を使用して、表示するコール数を *number* 引数で指定します。

コール履歴テーブルの簡略版を表示するには、キーワード **brief** を使用します。

メディアコールがアクティブな場合は、**show call active media** コマンドを使用してその統計を表示できます。

## 例

次に、**show call history media** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call history media
Telephony call-legs: 0
SIP call-legs: 0
H323 call-legs: 0
Call agent controlled call-legs: 0
Media call-legs: 4
Total call-legs: 4
GENERIC:
SetupTime=308530 ms
Index=4
PeerAddress=sip:mrpcv2ASRServer@10.5.18.224:5060
PeerSubAddress=
PeerId=2234
PeerIfIndex=184
LogicalIfIndex=0
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=309440 ms
DisconnectTime=320100 ms
CallDuration=00:00:10 sec
CallOrigin=1
ReleaseSource=7
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=237
TransmitBytes=37920
ReceivePackets=0
ReceiveBytes=0
VOIP:
ConnectionId[0x2FB5B737 0xC3511DB 0x8005000B 0x5FDA0EF4]
IncomingConnectionId[0x2FB5B737 0xC3511DB 0x8005000B 0x5FDA0EF4]
CallID=14
RemoteIPAddress=10.5.18.224
RemoteUDPPort=10002
RemoteSignallingIPAddress=10.5.18.224
RemoteSignallingPort=5060
RemoteMediaIPAddress=10.5.18.224
RemoteMediaPort=10002
SRTP = off
TextRelay = off
Fallback Icpif=0
Fallback Loss=0
Fallback Delay=0
RoundTripDelay=0 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=rtp-nte
FastConnect=FALSE
AnnexE=FALSE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=sip2
ProtocolCallId=2FBDA670-C3511DB-8015C48C-6A894889@10.5.14.2
SessionTarget=10.5.18.224
OnTimeRvPayout=3000
GapFillWithSilence=0 ms
GapFillWithPrediction=0 ms
```

```

GapFillWithInterpolation=2740 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=100 ms
LoWaterPlayoutDelay=40 ms
Source tg label=test5
ReceiveDelay=90 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=0
VAD = disabled
CoderTypeRate=g711ulaw
CodecBytes=160
cvVoIPCallHistoryIcpif=16
MediaSetting=flow-around
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=
OriginalCalledOctet=0x0
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0x0
TranslatedCallingNumber=555-0100
TranslatedCallingOctet=0x21
TranslatedCalledNumber=
TranslatedCalledOctet=0xC1
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwOutpulsedCallingNumber=555-0101
GwOutpulsedCallingOctet3=0x21
GwOutpulsedCallingOctet3a=0x81
MediaInactiveDetected=no
MediaInactiveTimestamp=
MediaControlReceived=
LongDurationCallDetected=no
LongDurationCallTimerStamp=
LongDurationCallDuration=
Username=
GENERIC:
SetupTime=308520 ms
Index=5
PeerAddress=sip:mrcpv2TTSserver@10.5.18.224:5060
PeerSubAddress=
PeerId=2235
PeerIfIndex=185
LogicalIfIndex=0
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=309370 ms
DisconnectTime=320100 ms
CallDuration=00:00:10 sec
CallOrigin=1
ReleaseSource=7
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=0
TransmitBytes=0
ReceivePackets=551
ReceiveBytes=88160
VOIP:
ConnectionId[0x2FB5B737 0xC3511DB 0x8005000B 0x5FDA0EF4]
IncomingConnectionId[0x2FB5B737 0xC3511DB 0x8005000B 0x5FDA0EF4]
CallID=13
RemoteIPAddress=10.5.18.224

```

```
RemoteUDPPort=10000
RemoteSignallingIPAddress=10.5.18.224
RemoteSignallingPort=5060
RemoteMediaIPAddress=10.5.18.224
RemoteMediaPort=10000
SRTP = off
TextRelay = off
Fallback Icpif=0
Fallback Loss=0
Fallback Delay=0
RoundTripDelay=0 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=rtp-nte
FastConnect=FALSE
AnnexE=FALSE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=sipv2
ProtocolCallId=2FBC6E20-C3511DB-8013C48C-6A894889@10.5.14.2
SessionTarget=10.5.18.224
OnTimeRvPlayout=7000
GapFillWithSilence=0 ms
GapFillWithPrediction=0 ms
GapFillWithInterpolation=2740 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=100 ms
LoWaterPlayoutDelay=40 ms
Source tg label=test5
ReceiveDelay=95 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=0
VAD = disabled
CoderTypeRate=g711ulaw
CodecBytes=160
cvVoIPCallHistoryIcpif=16
MediaSetting=flow-around
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=
OriginalCalledOctet=0x0
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0x0
TranslatedCallingNumber=555-0102
TranslatedCallingOctet=0x21
TranslatedCalledNumber=
TranslatedCalledOctet=0xC1
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwOutputPulsedCallingNumber=555-0103
GwOutputPulsedCallingOctet3=0x21
GwOutputPulsedCallingOctet3a=0x81
MediaInactiveDetected=no
MediaInactiveTimestamp=
MediaControlReceived=
LongDurationCallDetected=no
LongDurationCallTimerStamp=
LongDurationCallDuration=
Username=
GENERIC:
SetupTime=408050 ms
Index=7
```

```

PeerAddress=sip:mrcpv2ASRServer@10.5.18.224:5060
PeerSubAddress=
PeerId=2234
PeerIfIndex=184
LogicalIfIndex=0
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=408160 ms
DisconnectTime=426260 ms
CallDuration=00:00:18 sec
CallOrigin=1
ReleaseSource=7
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=598
TransmitBytes=95680
ReceivePackets=0
ReceiveBytes=0
VOIP:
ConnectionId[0x6B02FC0C 0xC3511DB 0x8006000B 0x5FDA0EF4]
IncomingConnectionId[0x6B02FC0C 0xC3511DB 0x8006000B 0x5FDA0EF4]
CallID=19
RemoteIPAddress=10.5.18.224
RemoteUDPPort=10002
RemoteSignallingIPAddress=10.5.18.224
RemoteSignallingPort=5060
RemoteMediaIPAddress=10.5.18.224
RemoteMediaPort=10002
SRTP = off
TextRelay = off
Fallback Icpif=0
Fallback Loss=0
Fallback Delay=0
RoundTripDelay=0 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=rtp-nte
FastConnect=FALSE
AnnexE=FALSE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=sipv2
ProtocolCallId=6B0E94CD-C3511DB-801DC48C-6A894889@10.5.14.2
SessionTarget=10.5.18.224
OnTimeRvPayout=11000
GapFillWithSilence=0 ms
GapFillWithPrediction=0 ms
GapFillWithInterpolation=9560 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPayoutDelay=100 ms
LoWaterPayoutDelay=55 ms
Source tg label=test5
ReceiveDelay=100 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=0
VAD = disabled
CoderTypeRate=g711ulaw
CodecBytes=160
cvVoIPCallHistoryIcpif=16
MediaSetting=flow-around
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=
OriginalCallingOctet=0x0

```

```
OriginalCalledNumber=  
OriginalCalledOctet=0x0  
OriginalRedirectCalledNumber=  
OriginalRedirectCalledOctet=0x0  
TranslatedCallingNumber=555-0100  
TranslatedCallingOctet=0x21  
TranslatedCalledNumber=  
TranslatedCalledOctet=0xC1  
TranslatedRedirectCalledNumber=  
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF  
GwOutpulsedCallingNumber=555-0101  
GwOutpulsedCallingOctet3=0x21  
GwOutpulsedCallingOctet3a=0x81  
MediaInactiveDetected=no  
MediaInactiveTimestamp=  
MediaControlReceived=  
LongDurationCallDetected=no  
LongDurationCallTimerStamp=  
LongDurationCallDuration=  
Username=  
GENERIC:  
SetupTime=408040 ms  
Index=8  
PeerAddress=sip:mrpv2TTSServer@10.5.18.224:5060  
PeerSubAddress=  
PeerId=2235  
PeerIfIndex=185  
LogicalIfIndex=0  
DisconnectCause=10  
DisconnectText=normal call clearing (16)  
ConnectTime=408130 ms  
DisconnectTime=426260 ms  
CallDuration=00:00:18 sec  
CallOrigin=1  
ReleaseSource=7  
ChargedUnits=0  
InfoType=speech  
TransmitPackets=0  
TransmitBytes=0  
ReceivePackets=911  
ReceiveBytes=145760  
VOIP:  
ConnectionId[0x6B02FC0C 0xC3511DB 0x8006000B 0x5FDA0EF4]  
IncomingConnectionId[0x6B02FC0C 0xC3511DB 0x8006000B 0x5FDA0EF4]  
CallID=18  
RemoteIPAddress=10.5.18.224  
RemoteUDPPort=10000  
RemoteSignallingIPAddress=10.5.18.224  
RemoteSignallingPort=5060  
RemoteMediaIPAddress=10.5.18.224  
RemoteMediaPort=10000  
SRTP = off  
TextRelay = off  
Fallback Icpif=0  
Fallback Loss=0  
Fallback Delay=0  
RoundTripDelay=0 ms  
SelectedQoS=best-effort  
tx_DtmfRelay=rtp-nte  
FastConnect=FALSE  
AnnexE=FALSE  
Separate H245 Connection=FALSE  
H245 Tunneling=FALSE  
SessionProtocol=sipv2
```

```

ProtocolCallId=6B0CC055-C3511DB-801BC48C-6A894889@10.5.14.2
SessionTarget=10.5.18.224
OnTimeRvPlayout=9000
GapFillWithSilence=0 ms
GapFillWithPrediction=0 ms
GapFillWithInterpolation=9560 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=100 ms
LoWaterPlayoutDelay=55 ms
Source tg label=test5
ReceiveDelay=100 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=0
VAD = disabled
CoderTypeRate=g711ulaw
CodecBytes=160
cvVoIPCallHistoryIcpif=16
MediaSetting=flow-around
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=
OriginalCalledOctet=0x0
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0x0
TranslatedCallingNumber=555-0100
TranslatedCallingOctet=0x21
TranslatedCalledNumber=
TranslatedCalledOctet=0xC1
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwOutpulsedCallingNumber=555-0101
GwOutpulsedCallingOctet3=0x21
GwOutpulsedCallingOctet3a=0x81
MediaInactiveDetected=no
MediaInactiveTimestamp=
MediaControlReceived=
LongDurationCallDetected=no
LongDurationCallTimerStamp=
LongDurationCallDuration=
Username=

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドをアルファベット順に説明します。

表 3: show call history media のフィールドの説明

フィールド	説明
CallDuration	コールの長さ（時間、分、秒（hh:mm:ss）単位）。
CallOrigin	コールオリジン（応答または発信）。
ChargedUnits	システム起動時以降、対象となるピアに適用される課金単位の総数。 このフィールドの測定単位は 100 分の 1 秒。
CodecBytes	使用コーデックのペイロードサイズ（バイト単位）。

フィールド	説明
CoderTypeRate	ネゴシエート済みのコーダレート。この値によって、このコールに関連付けられたコールレグへの音声圧縮またはファクス圧縮の送信レートが指定されます。
ConnectionId	このゲートウェイコールのグローバルコール ID。
ConnectTime	コールが接続されていた時間（ミリ秒単位）。
GapFillWithInterpolation	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、時間的に前後するデータのパラメータまたはサンプルから合成された信号を使って音声信号が再生された時間（ミリ秒）。
GapFillWithRedundancy	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、利用可能な冗長性パラメータから合成された信号を使って音声信号が再生された時間（ミリ秒）。
GapFillWithPrediction	音声データが失われたか、当該コールの時間内に音声ゲートウェイから受信されなかったことが原因で、時間的に先行するデータのパラメータまたはサンプルから合成された信号を使ってその音声信号が再生された時間（ミリ秒）。このようなブルアウトの例には、G.729 および G.723.1 圧縮アルゴリズムでのフレーム消去方式やフレーム隠蔽方式が挙げられます。
GapFillWithSilence	音声データが失われたか、当該コールの時間内に受信されなかったことが原因で、音声信号が無音に置き換えられた時間（ミリ秒）。
GENERIC	汎用パラメータまたは共通パラメータ（つまり VoIP コールレグおよびテレフォニーコールレグに共通のパラメータ）。
H323 call-legs	コールレコードが利用可能な H.323 コールレグの合計数。
HiWaterPlayOutDelay	このコール中における最高水準音声の再生先入れ先出し（FIFO）遅延（ミリ秒単位）。
Index	ダイヤルピア識別番号。
InfoType	このコールの情報タイプ。たとえば、音声、音声入力またはファクスなど。
LogicalIfIndex	このコールにおける論理インターフェイスのインデックス番号。
LoWaterPlayOutDelay	このコール中における最低水準音声の再生 FIFO 遅延（ミリ秒単位）。
OnTimeRvPlayOut	当該コールに対して、時間通りに受信したデータからの音声再生の持続時間。アクティブ音声の合計音声再生時間は、OnTimeRvPlayOut 値を GapFill 値に加算することで求めることができます。

フィールド	説明
PeerAddress	当該ピアに関連付けられた宛先パターンまたは宛先番号。
PeerId	当該コールの発信先であるピアテーブルエントリの ID 値。
PeerIfIndex	このピアの音声ポートインデックス番号。ISDN メディアの場合は、当該コールで使用される B チャンネルのインデックス番号となります。
PeerSubAddress	当該コール接続時のサブアドレス。
ReceiveBytes	当該コール中にこのピアが受信したバイト数。
ReceiveDelay	当該音声コール中における再生 FIFO 遅延の平均値とデコーダ遅延を加算した時間（ミリ秒）。
ReceivePackets	当該コール中にこのピアが受信したパケット数。
ReleaseSource	リリース元の数値。
RemoteIPAddress	VoIP コールでのリモートシステムの IP アドレス。
RemoteUDPPort	音声パケットの送信先であるリモートシステムの User Datagram Protocol (UDP) リスナーポート。
RoundTripDelay	当該コールの IP バックボーン上におけるローカルシステムとリモートシステム間での音声パケットのラウンドトリップ遅延（ミリ秒）。
SelectedQoS	当該コールに選択された Resource Reservation Protocol (RSVP) の RSVP Quality of Service (QoS)。
SessionProtocol	IP バックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
SessionTarget	このコールに使用されるピアのセッションターゲット。
SetupTime	このエントリに関連付けられたコールの開始時におけるシステム稼働時間の値（ミリ秒）。
SIP call-legs	コールレコードが使用可能な Session Initiation Protocol (SIP) コールレッグの合計数。
Telephony call-legs	コールレコードが利用可能なテレフォニーコールレッグの合計数。
TransmitBytes	当該コール中にこのピアが送信したバイト数。
TransmitPackets	当該コール中にこのピアが送信したパケット数。
VAD	このコールで音声アクティベーション検出 (VAD) が有効になっているかどうか。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dial-control-mib</b>	テーブルに含むコールの最大数を設定します。
<b>show call active media</b>	進行中のメディアコールのコール情報を表示します。

# show call history stats

コール履歴の統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show call history stats** コマンドを使用します。

**show call history stats** { **connected table** | **cps** { *details* | *table* } | **short-duration**

## 構文の説明

<b>connected</b>	接続済みコールのコール統計を表示します。
<i>table</i>	(任意) すべての接続済みコールのコール統計を表形式で表示します。
<b>cps</b>	コール統計を、1 秒あたりのコール処理数の形式で表示します。
<b>details</b>	コール統計を、コールレグレートを含む 1 秒あたりのコール処理数の形式で表示します。
<b>table</b>	コール統計を、コールレグレートを含む 1 秒あたりのコール処理数として、表形式で表示します。
<b>short-duration</b>	短時間コールに関するコール統計を表示します。デフォルトでは、合計時間が 5 秒未満のコールはすべて、短時間コールと見なされます。デフォルト値は、Management Information Base (MIB) で変更できます。

## コマンドモード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 3.8	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**show call history stats connected** コマンドを使用すると、接続済みコールの統計をグラフ形式で表示できます。

```
Device#show call history stats connected
```

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
          0      5      0      5      0      5      0      5      0      5      0      5      0
    Connected Calls (last 60 seconds)
    # = Connected calls handled by the module

```





```

      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
Connected Cube Calls (last 72 hours)
* = maximum Connected calls   # = average Connected calls

```

キーワード **table** を使用すると、接続済みコールの統計を表形式で表示できます。このコマンドの出力には、次の各表が表示されます。

- Connected calls for the last 60 seconds (過去 60 秒間の接続済みコール数)
- Connected calls for the last 60 minutes (過去 60 分間の接続済みコール数)
- Connected calls for the last 72 hours (過去 72 時間の接続済みコール数)

```
Device#show call history stats connected table
```

```
11:01:44 AM Thursday Aug 29 2019 IST
```

```
Connected Calls (last 60 seconds)
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

```
Connected Calls (last 60 minutes)
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	324	900
51-55	343	900
56-60	292	600

```
Connected Calls (last 72 hours)
```

Period	Average	Max
1-5	35	900
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0

show call history stats

```

31-35      0      0
36-40      0      0
41-45      0      0
46-50      0      0
51-55      0      0
56-60      0      0
61-65      0      0
66-70      0      0
71-72      0      0
    
```

例

Device#show call history stats cps

10:26:05 AM Wednesday Sep 25 2019 UTC

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
          0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0
    Call switching rate / CPS (last 60 seconds)
    # = calls handled by the module per second
    
```

```

11
10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
          **
 0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
          0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0
    Call switching rate / CPS (last 60 minutes)
    * = maximum calls/s    # = average calls/s
    
```

1

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1 *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
Call switching rate / CPS (last 72 hours)
* = maximum calls/s    # = average calls/s

```

Device#show call history stats cps detail

10:23:27 AM Wednesday Sep 25 2019 UTC

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
Call switching rate / CPS (last 60 seconds)
# = calls handled by the module per second

```

11

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
                                     **
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
Call switching rate / CPS (last 60 minutes)
* = maximum calls/s    # = average calls/s

```

show call history stats

```

1
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1 *
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7...
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
Call switching rate / CPS (last 72 hours)
* = maximum calls/s   # = average calls/s

```

10:23:27 AM Wednesday Sep 25 2019 UTC

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
Call-leg switching rate (last 60 seconds)
# = call legs handled by the module per second

```

11

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
          **
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
Call-leg switching rate (last 60 minutes)
* = maximum call-legs/s   # = average call-legs/s

```

```

1
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1 *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
Call-leg switching rate (last 72 hours)
* = maximum call-legs/s    # = average call-legs/s
    
```

Device#show call history stats cps table

10:26:50 AM Wednesday Sep 25 2019 UTC

Call switching rate / CPS (last 60 seconds)

Period	Actual	Average
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

Call switching rate / CPS (last 60 minutes)

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	1
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

Call switching rate / CPS (last 72 hours)

Period	Average	Max
1-5	0	1
6-10	0	0
11-15	0	0

show call history stats

16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

## show call history video

Signaling Connection Control Protocol (SCCP) ビデオコールのコール履歴情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show call history video** コマンドを使用します。

**show call history video** [**brief**] [**id identifier**] **compact** [**duration** {**less** | **more**} *seconds*] [**last number**]

### 構文の説明

<b>brief</b>	(任意) 簡略版のビデオコール履歴情報を表示します。
<b>id identifier</b>	(任意) 指定した識別子を持つビデオコール履歴のみを表示します。範囲は 1 ~ FFFF の 16 進値です。
<b>compact</b>	(任意) アクティブなビデオコール履歴情報の要約を表示します。
<b>duration</b>	(任意) 指定した期間中のコール履歴を表示します。
<b>less</b>	指定秒数よりも短い時間のコール履歴を表示します。
<b>more</b>	指定秒数よりも長い時間のコール履歴を表示します。
<i>seconds</i>	秒単位での時間。範囲は、1 ~ 2147483647 です。
<b>last number</b>	(任意) 直近の接続済みコールを表示します。表示するコール数は、 <i>number</i> 回数によって定義できます。範囲は 1 ~ 100 です。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

Cisco IOS リリース	シスコ製品	変更内容
12.4(4)XC	Cisco Unified CME 4.0	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	Cisco Unified CME 4.0	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.4(9)T に組み込まれました。
12.4(16)、12.4(15)T	Cisco Unified CME 4.0	このコマンドが変更されました。コマンド出力内の TELE コールレグレコードに、表示フィールド Port および BearerChannel が追加されました。

### 例

次に、**compact** オプションを指定した場合の **show call history video** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call history video compact
<callID>  A/O FAX T<sec> Codec      type      Peer Address      IP R<ip>:<udp>
Total call-legs: 2
      241      ANS      T17      g729r8      VOIP      P555-0100      192.0.2.0:16926
```

```
242      ORG      T17      g729r8      TELE-VIDEO  P555-0101
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 4: *show call history video* のフィールドの説明

フィールド	説明
callID	コールレグ固有の識別子。
A/O	コールレグが応答 (ANS) または発信側 (ORG) だったことを示します。
FAX	コールレグのファクス番号。
T<sec>	持続時間 (秒単位)。
Codec	このコールレグで使用されたコーデック。
type	このコールレグのコールタイプ。
Peer Address	リモートピアの着信番号または発信番号。
IP R<ip>:<udp>	IP アドレスおよびポート番号
Total call-legs	このコールの合計コールレグ数。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show call active video</b>	進行中の SCCP ビデオコールのコール情報を表示します。

# show call history video record

着信ビデオコールおよび発信ビデオコールの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show call history video record** コマンドを使用します。

## show call history video record

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

### 例

次の例は、2つのビデオコールに関する情報を表示したものです。

```
Router# show call history video record
CallId = 4
CalledNumber = 221
CallDuration = 39006 seconds
DisconnectText = remote hangup
SVC: call ID = 8598630
Remote NSAP = 47.0091810000000002F26D4901.00107B09C645.C8
Local NSAP = 47.0091810000000002F26D4901.00107B4832E1.C8
vcd = 414, vpi = 0, vci = 158
SerialPort = Serial0
VideoSlot = 1, VideoPort = 0
CallId = 3
CalledNumber = 221
CallDuration = 557 seconds
DisconnectText = local hangup
SVC: call ID = 8598581
Remote NSAP = 47.0091810000000002F26D4901.00107B09C645.C8
Local NSAP = 47.0091810000000002F26D4901.00107B4832E1.C8
vcd = 364, vpi = 0, vci = 108
SerialPort = Serial0
VideoSlot = 1, VideoPort = 0
```

## show call history voice

音声コールのコール履歴テーブルを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show call history voice** コマンドを使用します。

```
show call history voice [{brief [id identifier]|compact [duration {less|more} seconds]|
dest-route-string tag|id identifier|last number|redirect {rtpvt|tbct}|stats}]
```

構文の説明	
<b>brief</b>	(任意) 簡略版のコール履歴テーブルを表示します。
<b>id identifier</b>	(任意) 指定した識別子を持つコールのみを表示します。範囲は 1 ~ FFFF です。
<b>compact</b>	(任意) 要約版のコール履歴テーブルを表示します。
<b>dest-route-string tag</b>	(任意) 指定した <i>tag</i> 値を持つコールのみを表示します。範囲は 1 ~ 10000 です。
<b>duration seconds</b>	(任意) <i>seconds</i> 引数で指定した秒数よりも長いコールまたは短いコールの履歴情報を表示します。引数およびキーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>less</b> -- 指定した <i>seconds</i> 値よりも短いコールを表示します。</li> <li>• <b>more</b> -- 指定した <i>seconds</i> 値よりも長いコールを表示します。</li> <li>• <i>seconds</i> -- 経過時間 (秒)。範囲は 1 ~ 2147483647 です。</li> </ul>
<b>last number</b>	(任意) 直近の接続済みコールを表示します。表示するコール数は、 <i>number</i> 引数によって定義できます。範囲は 1 ~ 100 です。
<b>redirect</b>	(任意) リリース-to-Pivot (RTPvt) または Two B-Channel Transfer (TBCT) を使用してリダイレクトされたコールに関する情報を表示します。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>rtpvt</b> -- RTPvt コールに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>tbct</b> -- TBCT コールに関する情報を表示します。</li> </ul>
<b>stats</b>	(任意) デジタルシグナル処理 (DSP) の音声品質メトリックに関する情報を表示します。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。

リリース	変更内容
12.0(3)XG	サポート対象に Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの Voice over Frame Relay (VoFR) が追加されました。
12.0(4)XJ	このコマンドは、ストアアンドフォワードファクス用に変更されました。
12.0(4)T	キーワード <b>brief</b> が追加され、このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。
12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(7)XK	キーワード <b>brief</b> が Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco AS5800 に導入されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(2)XA	このコマンドの出力が変更され、指定したコールの確立に Annex E が用いられたかどうかが表示されるようになりました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていませんでした。
12.2(11)T	Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800 および Cisco AS5850 に対するサポートが追加されました。
12.2(13)T	[フィールドの説明] 表に ReleaseSource フィールドが追加され、コマンド名からキーワード <b>record</b> が削除されました。
12.3(1)	<b>redirect</b> キーワードが追加されました。
12.4(2)T	LocalHostname 表示フィールドが VoIP コールレグレコードに追加されました。
12.4(11)XW	<b>stats</b> キーワードが追加されました。
12.4(15)T	コマンド出力内の TELE コールレグレコードに、表示フィールド Port および BearerChannel が追加されました。

リリース	変更内容
12.4(16)	コマンド出力内の TELE コールレグレコードに、表示フィールド Port および BearerChannel が追加されました。
12.4(22)T	コマンド出力が更新され、IPv6 情報が表示されるようになりました。
15.3(3)M	このコマンドが変更されました。 <b>dest-route-string</b> キーワードが追加されました。
Cisco IOS XE リリース 3.10S	このコマンドが Cisco IOS XE リリース 3.10S に統合されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、コール履歴テーブルに、当該ルータ経由で接続された音声コールを時間降順で一覧表示できます。グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-control-mib** コマンドを使用すると、当該テーブルに含めるコールの最大数を 0 ~ 500 のいずれかの値に設定できます。デフォルトでは、テーブルに含める最大エントリ数は 50 に設定されています。各コールレコードは、分数（設定可能）が経過すると、期限切れとなりテーブルから消去されます。このタイマー値も **dial-control-mib** コマンドで指定できます。このタイマーのデフォルト値は 15 分です。

特定のキーワードを使用すると、コール履歴テーブルのサブセットを表示できます。このルータを介して接続された直近のコールを表示するには、キーワード **last** を使用して、表示するコール数を **number** 引数で指定します。

コール履歴テーブルの簡略版を表示するには、キーワード **brief** を使用します。

**show call active voice redirect** コマンドを使用すると、RTPvt または TBCT を実装しているコールのレコードを確認できます。

コールがアクティブな場合は、**show call active voice** コマンドを使用してその統計を表示できます。

**show call active voice dest-route-string** コマンドを使用すると、グローバルレベルまたはダイヤルピア別に **destination-route-string** を指定してコールルーティングが設定されたアクティブ音声コールのみを表示できます。

### 例

次に、**show call history voice** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call history voice
GENERIC:
SetupTime=104648 ms
Index=1
PeerAddress=55240
PeerSubAddress=
PeerId=2
PeerIfIndex=105
LogicalIfIndex=0
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing.
ConnectTime=104964
```

```
DisconnectTime=143329
CallDuration=00:06:23
CallOrigin=1
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=37668
TransmitBytes=6157536
ReceivePackets=37717
ReceiveBytes=6158452
VOIP:
ConnectionId[0x4B091A27 0x3EDD0003 0x0 0xFEFD4]
CallID=2
RemoteIPAddress=10.14.82.14
RemoteUDPPort=18202
RoundTripDelay=2 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=inband-voice
FastConnect=TRUE
SessionProtocol=cisco
SessionTarget=ipv4:10.14.82.14
OnTimeRvPlayout=40
GapFillWithSilence=0 ms
GapFillWithPrediction=0 ms
GapFillWithInterpolation=0 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=67 ms
LoWaterPlayoutDelay=67 ms
ReceiveDelay=67 ms
LostPackets=0 ms
EarlyPackets=0 ms
LatePackets=0 ms
VAD = enabled
CoderTypeRate=g729r8
CodecBytes=20
cvVoIPCallHistoryIcpif=0
SignalingType=cas
Modem passthrough signaling method is nse
Buffer Fill Events = 0
Buffer Drain Events = 0
Percent Packet Loss = 0
Consecutive-packets-lost Events = 0
Corrected packet-loss Events = 0
Last Buffer Drain/Fill Event = 373sec
Time between Buffer Drain/Fills = Min 0sec Max 0sec
GENERIC:
SetupTime=104443 ms
Index=2
PeerAddress=50110
PeerSubAddress=
PeerId=100
PeerIfIndex=104
LogicalIfIndex=10
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing.
ConnectTime=104964
DisconnectTime=143330
CallDuration=00:06:23
CallOrigin=2
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=37717
TransmitBytes=5706436
ReceivePackets=37668
ReceiveBytes=6609552
```

```

TELE:
ConnectionId=[0x4B091A27 0x3EDD0003 0x0 0xFEFD4]
CallID=3
Port=3/0/0 (3)
BearerChannel=3/0/0.1
TxDuration=375300 ms
VoiceTxDuration=375300 ms
FaxTxDuration=0 ms
CoderTypeRate=g711ulaw
NoiseLevel=-75
ACOMLevel=11
SessionTarget=
ImgPages=0

```

次の出力例は Cisco AS5350 ルータの音声コール履歴レコードから、リリース元情報を表示したものです。

```

Router# show call history voice
Telephony call-legs: 1
SIP call-legs: 0
H323 call-legs: 1
Total call-legs: 2
GENERIC:
SetupTime=85975291 ms
.
.
.
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=85975335
DisconnectTime=85979339
CallDuration=00:00:40
CallOrigin=1
ReleaseSource=1
.
.
.
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=85975335
DisconnectTime=85979339
CallDuration=00:00:40
CallOrigin=1
ReleaseSource=1
.
.
.
VOIP:
ConnectionId[0x2868AD84 0x375B11D4 0x8012F7A5 0x74DE971E]
CallID=1
.
.
.
GENERIC:
SetupTime=85975290 ms
.
.
.
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=85975336
DisconnectTime=85979340
CallDuration=00:00:40

```

```

CallOrigin=2
ReleaseSource=1
.
.
TELE:
ConnectionId=[0x2868AD84 0x375B11D4 0x8012F7A5 0x74DE971E]
CallID=2
Port=3/0/0 (2)
BearerChannel=3/0/0.1

```

次に、**show call history voice brief** コマンドの出力例を示します。

```

Router# show call history voice brief
<ID>: <CallID> <start>hs.<index> +<connect> +<disc> pid:<peer_id> <direction> <addr>
dur hh:mm:ss tx:<packets>/<bytes> rx:<packets>/<bytes> <disc-cause>(<text>)
IP <ip>:<udp> rtt:<time>ms pl:<play>/<gap>ms lost:<lost>/<early>/<late>
delay:<last>/<min>/<max>ms <codec>
media inactive detected:<y/n> media cntrl rcvd:<y/n> timestamp:<time>
MODEMPASS <method> buf:<fills>/<drains> loss <overall%> <multipkt>/<corrected>
last <buf event time>s dur:<Min>/<Max>s
FR <protocol> [int dlci cid] vad:<y/n> dtmf:<y/n> seq:<y/n>
<codec> (payload size)
ATM <protocol> [int vpi/vci cid] vad:<y/n> dtmf:<y/n> seq:<y/n>
<codec> (payload size)
Telephony <int> (callID) [channel_id] tx:<tot>/<voice>/<fax>ms <codec> noise:<lvl>dBm
acom:<lvl>dBm
MODEMRELAY info:<rcvd>/<sent>/<resent> xid:<rcvd>/<sent> total:<rcvd>/<sent>/<drops>
disc:<cause code>
speeds(bps): local <rx>/<tx> remote <rx>/<tx>
Proxy <ip>:<audio udp>,<video udp>,<tcp0>,<tcp1>,<tcp2>,<tcp3> endpt: <type>/<manf>
bw: <req>/<act> codec: <audio>/<video>
tx: <audio pkts>/<audio bytes>,<video pkts>/<video bytes>,<t120 pkts>/<t120 bytes>
rx: <audio pkts>/<audio bytes>,<video pkts>/<video bytes>,<t120 pkts>/<t120 bytes>

```

次に、**show call history voice redirect** コマンドの出力例を示します。

```

Router# show call history voice redirect tbct
index=2, xfr=tbct-notify, status=redirect_success, start_time=*00:12:25.981 UTC Mon Mar
 1 1993, ctrl name=T1-2/0, tag=13
index=3, xfr=tbct-notify, status=redirect_success, start_time=*00:12:25.981 UTC Mon Mar
 1 1993, ctrl name=T1-2/0, tag=13
index=4, xfr=tbct-notify, status=redirect_success, start_time=*00:13:07.091 UTC Mon Mar
 1 1993, ctrl name=T1-2/0, tag=12
index=5, xfr=tbct-notify, status=redirect_success, start_time=*00:13:07.091 UTC Mon Mar
 1 1993, ctrl name=T1-2/0, tag=12
Number of call-legs redirected using tbct with notify:4

```

次の表で、**show call history voice redirect tbct** 出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 5: show call history voice redirect のフィールドの説明

フィールド	説明
index	履歴ファイル内の当該レコードのインデックス番号。
xfr	通知付きの TBCT または TBCT が呼び出されたかどうか。
status	リダイレクト要求のステータス。

フィールド	説明
start_time	リダイレクトされたコールの開始時刻（時、分、秒）。
ctrl name	コール発信元の T1 コントローラの名前。
tag	当該コールを識別するコールタグ番号。
通知付きの tbct を使用してリダイレクトされたコールレグの数	通知付きの TBCT を使用してリダイレクトされたコールレグの合計数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dial-control-mib</b>	テーブルに含むコールの最大数を設定します。
<b>show call active fax</b>	進行中のファクス送信のコール情報を表示します。
<b>show call active voice</b>	進行中の音声コールのコール情報を表示します。
<b>show call history fax</b>	ファクス送信の履歴テーブルを表示します。
<b>show dial-peer voice</b>	ダイヤルピアの設定情報を表示します。
<b>show num-exp</b>	VoIP の番号拡張の設定方法を表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

## show call history watermark connected table

さまざまな期間での1秒あたりの接続コールレート数値によって導出される、過去 **n** 間の高水準点を表示するには、**show call history watermark connected table** コマンドを使用します。期間は、前回リロードからの秒数、分数、および時間数で指定できます。テーブルのサイズは可変で、設定可能です。

**show call history watermark connected table** [{**brief**] [**id identifier**]| **compact** [**duration** {**less**|**more**} **seconds**]| **last number**}]

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

Cisco IOS リリース	変更内容
15.3(1)T	このコマンドが導入されました。

次に、**show call history watermark connected table** コマンドの出力例を示します。

この出力には、過去1分間、過去1時間、およびすべての時間における1秒あたりのコールレートが表形式で表示されています。

```
Device#show call history watermark connected table
Device 01:48:05 AM Thursday Mar 14 2019 UTC
=====
Connected Calls
----- The WaterMark Table for Second -----
Value : 0, ts : [Thu, 14 Mar 2019 01:48:01 GMT]
Value : 0, ts : [Thu, 14 Mar 2019 01:48:02 GMT]
Value : 0, ts : [Thu, 14 Mar 2019 01:48:03 GMT]
Value : 0, ts : [Thu, 14 Mar 2019 01:48:04 GMT]
Value : 0, ts : [Thu, 14 Mar 2019 01:48:05 GMT]
----- The WaterMark Table for Minute-----
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:33:06 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:33:06 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:33:06 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:33:06 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:33:06 GMT]
----- The WaterMark Table for Hour -----
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:16:05 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:16:05 GMT]
Value : 0, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:16:05 GMT]
Value : 1, ts : [Wed, 13 Mar 2019 00:12:05 GMT]
Value : 1, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:16:05 GMT]
----- The WaterMark Table for Alltime-----
Value : 1, ts : [Sun, 10 Mar 2019 01:39:05 GMT]
Value : 1, ts : [Sun, 10 Mar 2019 23:06:05 GMT]
Value : 1, ts : [Wed, 13 Mar 2019 00:12:05 GMT]
Value : 1, ts : [Wed, 13 Mar 2019 05:16:05 GMT]
Value : 2, ts : [Sun, 10 Mar 2019 23:57:05 GMT]
Device#
```

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、さまざまな期間での1秒あたりの接続コールレート数値によって導出される、過去n間の高水準点を表示できます。期間は、前回リロードからの秒数、分数、および時間数で指定できます。

**関連コマンド**

コマンド	説明
show call history stats connected	3つの期間（秒、分、および時間）中の接続済みコールまたはアクティブコールをヒストグラムで表示します。
show call history stats connected table	1秒あたりのアクティブコール数の最大値および平均値をコールテーブルに同時表示します。

## show call language voice

設定済みの言語、および標準で組み込まれていない言語に対応する Tool Command Language (TCL) モジュールの URL の要約を表示するには、EXEC モードで **show call language voice command in** を使用します。

**show call language voice** [*language* | *summary*]

構文の説明	<p><i>language</i> (任意) グローバル コンフィギュレーション モードで <b>call language voice</b> コマンドを使用して設定された 2 文字のプレフィックス。標準で組み込まれている言語のプレフィックスまたはユーザー定義のプレフィックス (たとえば英語の場合は「en」、ロシア語の場合は「ru」) のいずれかです。</p>
	<p><b>summary</b> (任意) 設定済みの言語、および標準で組み込まれていない言語の TCL モジュール URL をすべて示す要約。</p>

コマンドモード EXEC (#)

コマンド履歴	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="425 919 532 1010">リリース</th> <th data-bbox="532 919 927 1010">変更内容</th> </tr> <tr> <td data-bbox="425 1010 532 1068">12.2(2)T</td> <td data-bbox="532 1010 927 1068">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </table>	リリース	変更内容	12.2(2)T	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
12.2(2)T	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** このコマンドは、**show call application voice** コマンドと類似しています。標準で組み込まれている言語の場合、一覧表示される URL には「fixed」と表示されます。標準で組み込まれている言語をユーザー独自の言語で上書きした場合、URL 列の表示が「fixed」表記から、新しく使用するアプリケーションが存在する実際の URL に変わります。

### 例

次のコマンドは、設定済みの言語の要約を表示したものです。

```
Router# show call language voice summary
name      url
sp        fixed
ch        fixed
en        fixed
ru        tftp://dirt/fwarlau/scripts/multilag/ru_translate.tcl
```

次のコマンドは、ロシア語の設定に関する情報を表示したものです。

```
Router# show call language voice ru
ru_translate.tcl
ru_translate.tcl~
singapore.cfg
test.tcl
people% more ru_translate.tcl
# Script Locked by: farmerj
# Script Version: 1.1.0.0
# Script Lock Date: Sept 24 2000
```

```
# ca_translate.tcl
#-----
# Sept 24, 2000 Farmer Joe
#
# Copyright (c) 2000 by Cisco Systems, Inc.
# All rights reserved.
#-----
#<snip>...
...set prefix ""
#puts "argc"
#foreach arg $argv {
#puts "$arg"
#   translates $arg
#   puts "\t\t**** $prompt RETURNED"
#}
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call language voice</b>	TCL モジュールを設定します。
<b>call language voice load</b>	設定済みの URL ロケーションから、TCL モジュールをロードまたはリロードします。
<b>debug voip ivr</b>	表示する VoIP IVR デバッグ出力のタイプを指定します。
<b>show call application voice</b>	アプリケーションとその説明を表示します。

## show call leg

音声コールレグのイベントログおよび統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show call leg** コマンドを使用します。

```
show call leg {active|history} [{summary|[{last number|leg-id leg-id}] [{event-log|info}]]
```

構文の説明	
<b>active</b>	アクティブなコールレグの統計またはイベントログ。
<b>history</b>	終了したコールレグの統計またはイベントログ。
summary	(任意) 各コールレグ別の要約情報。
<b>last number</b>	(任意) 選択した数の直近のコールレグ。 <b>active</b> キーワードとは併用できません。
<b>leg-id leg-id</b>	(任意) 特定のコールレグ。出力には、ここで指定したコールレグのイベントログまたは統計が表示されます。
event-log	(任意) コールレグのイベントログ。
info	(任意) コールレグの統計。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** キーワード **leg-id** を使用すると、選択したコールレグの統計またはイベントログのみが表示されます。このコマンドでイベントログを表示するには、**call leg event-log** コマンドでイベントロギングを有効にする必要があります。

例

次に、**show call leg** コマンドでさまざまなキーワードを指定した場合の出力例を示します。

```
Router# show call leg active summary
G<id> L<id>      Elog A/O FAX T<sec> Codec      type Peer Address      IP R<ip>:<udp>
G11DC L A      Y  ANS      T2      None      TELE P4085550198
Total call-legs: 1
Router# show call leg active event-log

Event log for call leg ID: A      Connection ID: 11DC
buf_size=4K, log_lvl=INFO
<ctx_id>:<timestamp>:<seq_no>:<severity>:<msg_body>
A:1057277701:71:INFO: Call setup indication received, called = 4085550198, calling =
52927, echo canceller = enable, direct inward dialing
```

```

A:1057277701:72:INFO: Dialpeer = 1
A:1057277701:77:INFO: Digit collection
A:1057277701:78:INFO: Call connected using codec None
Total call-legs: 1
Router# show call leg active info

Information for call leg ID: A          Connection ID: 11DC
  GENERIC:
  SetupTime=3012940 ms
  Index=1
  PeerAddress=4085550198
  PeerSubAddress=
  PeerId=1
  PeerIfIndex=329
  LogicalIfIndex=253
  ConnectTime=301295
  CallDuration=00:00:20
  CallState=4
  CallOrigin=2
  ChargedUnits=0
  InfoType=2
  TransmitPackets=412
  TransmitBytes=98880
  ReceivePackets=0
  ReceiveBytes=0
  TELE:
  ConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
  IncomingConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
  TxDuration=20685 ms
  VoiceTxDuration=0 ms
  FaxTxDuration=0 ms
  CoderTypeRate=None
  NoiseLevel=-120
  ACOMLevel=90
  OutSignalLevel=-50
  InSignalLevel=-41
  InfoActivity=0
  ERLLLevel=38
  EchoCancellerMaxReflector=16685
  SessionTarget=
  ImgPages=0
  CallerName=
  CallerIDBlocked=False
  OriginalCallingNumber=4085550198
  OriginalCallingOctet=0x0
  OriginalCalledNumber=52927
  OriginalCalledOctet=0xE9
  OriginalRedirectCalledNumber=
  OriginalRedirectCalledOctet=0xFF
  TranslatedCallingNumber=4085550198
  TranslatedCallingOctet=0x0
  TranslatedCalledNumber=52927
  TranslatedCalledOctet=0xE9
  TranslatedRedirectCalledNumber=
  TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
  GwReceivedCalledNumber=52927
  GwReceivedCalledOctet3=0xE9
  GwReceivedCallingNumber=4085550198
  GwReceivedCallingOctet3=0x0
  GwReceivedCallingOctet3a=0x81
  Total call-legs: 1

```

コールレグ統計の説明については、**show call active voice** コマンドの説明を参照してください。

Router# show call leg active leg-id A

Call Information - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A

```

  GENERIC:
SetupTime=3012940 ms
Index=1
PeerAddress=4085550198
PeerSubAddress=
PeerId=1
PeerIfIndex=329
LogicalIfIndex=253
ConnectTime=301295
CallDuration=00:00:40
CallState=4
CallOrigin=2
ChargedUnits=0
InfoType=2
TransmitPackets=824
TransmitBytes=197760
ReceivePackets=0
ReceiveBytes=0
  TELE:
ConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
IncomingConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
TxDuration=20685 ms
VoiceTxDuration=0 ms
FaxTxDuration=0 ms
CoderTypeRate=None
NoiseLevel=-120
ACOMLevel=90
OutSignalLevel=-50
InSignalLevel=-41
InfoActivity=0
ERLLevel=38
EchoCancellerMaxReflector=16685
SessionTarget=
ImgPages=0
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=4085550198
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=52927
OriginalCalledOctet=0xE9
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0xFF
TranslatedCallingNumber=4085550198
TranslatedCallingOctet=0x0
TranslatedCalledNumber=52927
TranslatedCalledOctet=0xE9
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwReceivedCalledNumber=52927
GwReceivedCalledOctet3=0xE9
GwReceivedCallingNumber=4085550198
GwReceivedCallingOctet3=0x0
GwReceivedCallingOctet3a=0x81
Call Event Log - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A
buf_size=4K, log_lvl=INFO
<ctx_id>:<timestamp>:<seq no>:<severity>:<msg body>
A:1057277701:71:INFO: Call setup indication received, called = 4085550198, calling =
52927, echo canceller = enable, direct inward dialing
A:1057277701:72:INFO: Dialpeer = 1
A:1057277701:77:INFO: Digit collection

```

```
A:1057277701:78:INFO: Call connected using codec None
Call-leg found: 1
Router# show call leg active leg-id A event-log
```

```
Call Event Log - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A
buf_size=4K, log_lvl=INFO
<ctx_id>:<timestamp>:<seq_no>:<severity>:<msg_body>
A:1057277701:71:INFO: Call setup indication received, called = 4085550198, calling =
52927, echo canceller = enable, direct inward dialing
A:1057277701:72:INFO: Dialpeer = 1
A:1057277701:77:INFO: Digit collection
A:1057277701:78:INFO: Call connected using codec None
Call-leg found: 1
Router# show call leg history summary
```

G<id>	L<id>	Elog	A/O	FAX	T<sec>	Codec	type	Peer Address	IP R<ip>:<udp>
G11DB	L 7	Y	ANS		T24	None	TELE	P4085550198 D10	
G11DC	L A	Y	ANS		T159	None	TELE	P4085550198 D10	

Total call-legs: 2

```
Router# show call leg history last 1
```

```
Call Information - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A
GENERIC:
SetupTime=3012940 ms
Index=4
PeerAddress=4085550198
PeerSubAddress=
PeerId=1
PeerIfIndex=329
LogicalIfIndex=253
DisconnectCause=10
DisconnectText=normal call clearing (16)
ConnectTime=301295
DisconnectTime=317235
CallDuration=00:02:39
CallOrigin=2
ReleaseSource=1
ChargedUnits=0
InfoType=speech
TransmitPackets=2940
TransmitBytes=705600
ReceivePackets=0
ReceiveBytes=0
TELE:
ConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
IncomingConnectionId=[0x632D2CAB 0xACEB11D7 0x80050030 0x96F8006E]
TxDuration=20685 ms
VoiceTxDuration=0 ms
FaxTxDuration=0 ms
CoderTypeRate=None
NoiseLevel=-120
ACOMLevel=90
SessionTarget=
ImgPages=0
CallerName=
CallerIDBlocked=False
OriginalCallingNumber=4085550198
OriginalCallingOctet=0x0
OriginalCalledNumber=52927
OriginalCalledOctet=0xE9
OriginalRedirectCalledNumber=
OriginalRedirectCalledOctet=0xFF
TranslatedCallingNumber=4085550198
TranslatedCallingOctet=0x0
```

```

TranslatedCalledNumber=52927
TranslatedCalledOctet=0xE9
TranslatedRedirectCalledNumber=
TranslatedRedirectCalledOctet=0xFF
GwReceivedCalledNumber=52927
GwReceivedCalledOctet3=0xE9
GwReceivedCallingNumber=4085550198
GwReceivedCallingOctet3=0x0
GwReceivedCallingOctet3a=0x81
Call Event Log - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A
buf_size=4K, log_lvl=INFO
<ctx_id>:<timestamp>:<seq_no>:<severity>:<msg_body>
A:1057277701:71:INFO: Call setup indication received, called = 4085550198, calling =
52927, echo canceller = enable, direct inward dialing
A:1057277701:72:INFO: Dialpeer = 1
A:1057277701:77:INFO: Digit collection
A:1057277701:78:INFO: Call connected using codec None
A:1057277860:150:INFO: Inform application call disconnected (cause = normal call clearing
(16))
A:1057277860:154:INFO: Call disconnected (cause = normal call clearing (16))
A:1057277860:155:INFO: Call released
Total call-legs: 1
Total call-legs with event log: 1
Router# show call leg history leg-id A event-log

```

```

Call Event Log - Connection ID: 11DC , Call Leg ID: A
buf_size=4K, log_lvl=INFO
<ctx_id>:<timestamp>:<seq_no>:<severity>:<msg_body>
A:1057277701:71:INFO: Call setup indication received, called = 4085550198, calling =
52927, echo canceller = enable, direct inward dialing
A:1057277701:72:INFO: Dialpeer = 1
A:1057277701:77:INFO: Digit collection
A:1057277701:78:INFO: Call connected using codec None
A:1057277860:150:INFO: Inform application call disconnected (cause = normal call clearing
(16))
A:1057277860:154:INFO: Call disconnected (cause = normal call clearing (16))
A:1057277860:155:INFO: Call released
Call-leg matched ID found: 1
Call-legs matched ID with event log: 1

```

フィールドの説明は自明のため省略します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call leg event-log</b>	音声、ファクスおよびモデムのコールレグのイベントロギングを有効にします。
<b>call leg event-log dump ftp</b>	音声ゲートウェイがコールレグ イベント ログ バッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
<b>call leg event-log error-only</b>	イベントロギングを音声コールレグのエラーイベントのみに制限します。
<b>call leg event-log max-buffer-size</b>	各コールレグのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
<b>call leg history event-log save-exception-only</b>	1つ以上エラーがあったコールレグのイベントログのみを履歴に保存します。

コマンド	説明
<b>monitor call leg event-log</b>	アクティブなコールレグのイベントログをリアルタイムで表示します。

# show call media forking

現在アクティブなメディア フォーキング セッションを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show call media forking** コマンドを使用します。

## show call media forking

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、関連するアンカーレグに対するメディア分岐が成功したことを確認します。

### 例

次の例は、**show call media forking** コマンドの出力例です。

```
Router# show call media forking
Warning: Output may be truncated if sessions are added/removed concurrently!
Session Call n/f Destination (port address)
 7 6 far 1234 1.5.35.254
 8 6 near 5678 1.5.35.254
```

次の表で、出力に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
Session	セッション ID。
Call	16進数のコールレグ ID。show call leg active コマンドからのコールIDと一致する必要があります。
n/f	分岐された音声ストリームの方向（近端または遠端）。
Destination (port address)	分岐されたパケットの宛先。次の要素で構成されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• RTP ポート</li> <li>• IP アドレス</li> </ul>

# show callmon

コールのモニター情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show callmon** コマンドを使用します。

**show callmon {call | gcid | subscription | trace {all | event {all | call | connection} | exec | server | subscription | trigger}}**

構文の説明	
<b>call</b>	コールモニター対象のアクティブなコールを表示します。
<b>gcid</b>	アクティブなグローバルコール ID の情報を表示します。
<b>subscription</b>	サブスクリプション情報を表示します。
<b>trace</b>	トレース情報を表示します。
<b>all</b>	時刻に基づいてすべてのタイプのトレースを表示します。
<b>event</b>	イベントトレース情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> -- すべてのイベントトレースを表示します。</li> <li>• <b>call</b> -- 単一のコールに関連するイベントトレースを表示します。</li> <li>• <b>connection</b> -- 接続に関連するイベントトレースを表示します。</li> </ul>
<b>exec</b>	すべての重要な実行トレースを表示します。
<b>server</b>	すべてのセッション サーバー アップ/ダウン トレースを表示します。
<b>subscription</b>	すべてのサブスクリプショントレースを表示します。
<b>trigger</b>	インデックス別に全体のトリガー構造を表示します。

## コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、**show callmon call** コマンドでコールモニター対象のアクティブなコールを表示した出力例を示します。

```
Router# show callmon call
line dn      sub_id      number of call instance
6401,       1
           callID 2038(19D7), *cg = 6401, cd = 6601
```

```
6601,      1
      callID 2039(19D7),  cg = 6401, *cd = 6601
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 6: *show callmon call* のフィールドの説明

フィールド	説明
dn	ディレクトリ番号。
number of call	コールインスタンスの数。
instance	コールインスタンスの内容。

次に、**show callmon gcid** コマンドでアクティブなグローバルコール ID 情報を表示した出力例を示します。

```
Router# show callmon gcid
  GCID                               callIDs(active_entry_id)
AE48ECBC-D89311DB-87FC996E-115FF692
  isConfGcid:FALSE                   gcid_conf:00000000-00000000-00000000-00000000
, 2038(19D7), 2039(19D7)
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 7: *show callmon gcid* のフィールドの説明

フィールド	説明
GCID	グローバルコール ID。
CallIDs	アクティブコール ID。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>callmonitor</b>	VoIP ネットワークの SIP エンドポイントでコール モニタリング メッセージング機能を有効化します。

## show call prompt-mem-usage

プロンプトで使用されているメモリの量を表示するには、特権 EXEC モードで **show call prompt-mem-usage** コマンドを使用します。

**show call prompt-mem-usage [detail]**

構文の説明	<b>detail</b>	(任意) メモリ使用量と使用されているトーンの名前に関する詳細を表示します。
-------	---------------	--

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(15)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	<b>detail</b> キーワードが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、ゲートウェイで読み込まれたプロンプト数、プロンプトの使用メモリ量、現在再生中のプロンプト数、およびプロンプトの読み込みステータスを表示できます。

Cisco CallManager Express (Cisco CME) システムにより転送されたコールでは、**commit-at-alerting** の呼び出し音生成に、自動音声応答 (IVR) プロンプト再生メカニズムが使用されます。転送先に関連付けられた Cisco CME システムが、呼び出し音を転送先に対して再生します。

Cisco CME システムのネットワークロケール設定に基づいて、必要に応じてトーンプロンプトが自動的に生成されます。

### 例

次の出力例は、使用されているプロンプトのメモリ使用量に関する詳細を表示したものです。

```
Router# show call prompt-mem-usage
Prompt memory usage:
      config'd      wait      active      free      mc total      ms total
file(s)      0200      0010      0001      00189      00011      00002
memory 02097152 00081259 00055536 01960357 00136795
Prompt load counts: (counters reset 0)
  success 11(1st try) 0(2nd try), failure 0
Other mem block usage:
      mcDynamic      mcReader
gauge      00001      00001
Number of prompts playing: 1
Number of start delays : 0
MCs in the ivr MC sharing table
=====
Media Content: NoPrompt (0x83C64554)
  URL:
  cid=0, status=MC_READY size=24184 coding=g711lulaw refCount=0
Media Content: tone://GB_g729_tone_ringback (0x83266EC8)
  URL: tone://GB_g729_tone_ringback
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 8 : show call prompt-mem-usage のフィールドの説明

フィールド	説明
file(s)	各種キュー内のプロンプト数。
file(s) - config'd	メモリ内で同時使用できるよう設定されているプロンプト最大数。出力例のこのフィールドに表示されている値 200 は、201 番目のプロンプトを読み込むと、最も古いプロンプトが削除されることを意味します。
file(s) - wait	現在コールで使用されていない、新しいプロンプトの格納スペースがなくなった場合に削除できる、待機キュー内のプロンプト数。このフィールドには、削除できる比較的古いプロンプトが一覧表示されます。
file(s) - active	現在アクティブコールで使用されているプロンプト数。ここに表示されるプロンプトは削除できません。
file(s) - free	待機キューのプロンプトを削除することなく読み込めるプロンプト数。つまり、設定済みプロンプト数 (config'd の下に一覧表示された数) から、待機 (wait) 状態とアクティブ (active) 状態にある合計プロンプト数を引いた数を指します。
file(s) - mc total	待機 (wait) 状態のプロンプトとアクティブ (active) 状態のプロンプトの合計数。
ms total	現在アクティブなメディアストリームの数。INBOX プロンプトの再生に 1 つのメディアストリームが使用されます。URL が flash:、http:、ram:、または tftp: のプロンプトは、INBOX プロンプトと見なされます。
memory	プロンプトの使用メモリ量を表示します (バイト単位)。
memory - config'd	プロンプトで使用可能に設定された最大メモリ量。
memory - wait	wait リストにあるプロンプトの合計メモリ使用量。
memory - active	active リストにあるプロンプトの合計メモリ使用量。
memory - free	使用可能なメモリ量。つまり (config'd の下に一覧表示された) 設定済みプロンプトのメモリ量から、wait リストと active リストにあるプロンプトの合計メモリ使用量を引いた数を指します。
memory - mc total	wait リストと active リストにあるプロンプトの合計メモリ使用量。
Prompt load counts	1 回目の試行と 2 回目の試行でプロンプトの読み込みに成功した回数、およびプロンプトの読み込み試行に失敗した回数。

フィールド	説明
mcDynamic	アクティブな動的要素キューの数。動的要素キューとは、一斉に再生される各プロンプトのリストを指します。
mcReader	アクティブな mcReader の数。1つの mcDynamic キューにある各プロンプトを再生するために、mcReader が1つ使用されます。mcReader が使用されるのは、:flash:、http:、ram:、または tftp:のいずれかの URL タイプが関連付けられたプロンプトが mcDynamic に含まれている場合のみです。
Number of prompts playing	現在再生中のプロンプト数。
Number of start delays	プロンプトが開始に失敗してその後再起動した回数。
MCs in the ivr MC sharing table	この一行テキストの下にあるフィールドには、現在メモリにキャッシュされている各メディアコンテンツ（プロンプト）が表示されます。出力例では、キャッシュされているプロンプトとして「NoPrompt」という名前の内蔵デフォルトプロンプトのみが表示されています。
Media Content	音声ファイル URL（URL 末尾の「/」の後にある文字）から取得されたプロンプト名。括弧内のアドレスは、プロンプトのメモリロケーションを指します。
URL	再生中のプロンプトのファイルロケーション。デフォルトプロンプト NoPrompt の場合、URL は表示されません。
cid	プロンプトの読み込みを開始したコールのコール識別番号。
status	メディアコンテンツのステータス。次の値のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MC_NOT_READY -- メディアコンテンツの初期ステータス。当該メディアコンテンツが正常に読み込まれると、ステータスが MC_READY に変わります。</li> <li>• MC_READY -- メディアコンテンツがメモリに読み込まれて、使用できる状態になっています。</li> <li>• MC_LOAD_FAIL -- メディアコンテンツの読み込みに失敗しました。</li> </ul>
size	メディアコンテンツのサイズ（バイト単位）。
coding	メディアコンテンツで使用されるエンコーディングのタイプ。
refCount=0	当該メディアコンテンツが現在ストリーミングされているコール数。

## show call resource voice stats

H.323 ゲートウェイのリソース統計を表示するには、特権 EXEC モードで `show call resource voice stats` コマンドを使用します。

`show call resource voice stats` [`{ds0|dsp}`]

### 構文の説明

<b>ds0</b>	(任意) 音声デジタル信号レベル 0 (DS0) のリソース統計情報を指定します。
<b>dsp</b>	(任意) 音声デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のリソース統計情報を指定します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)T	このコマンドが導入されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(5)XM2 に統合されました
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)XB1 に統合されました。
12.2(8)T	このコマンドが変更されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800 および Cisco AS5850 シリーズの各種ルータはサポートされていません。
12.4(22)T	このコマンドが変更されました。キーワード <b>ds0</b> および <b>dsp</b> が追加されました。

### 使用上のガイドライン

`show call resource voice stats` コマンドを使用すると、`resource threshold` コマンドでリソースのしきい値レポートが設定されている場合にモニタリングされた H.323 リソースを表示できます。

### 例

次に示すのは、`show call resource voice stats` コマンドで H.323 ゲートウェイのリソース統計を表示した出力例です。

```
Router# show call resource voice stats
Resource Monitor - Dial-up Resource Statistics Information:
DSP Statistics:
Utilization: 0 percent
Total channels: 48
Inuse channels: 0
Disabled channels 0:
Pending channels: 0
Free channels: 48
DS0 Statistics:
Total channels: 0
Addressable channels: 0
Inuse channels: 0
```

```
Disabled channels: 0
Free channels: 0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 9: *show call resource voice stats* のフィールドの説明

統計	定義
Total channels	当該リソースに物理的に設定されているチャンネル数。
Inuse channels	使用中のアドレス指定可能なチャンネル数。この値には、アクティブなコールがあるチャンネル、またはテスト用に予約されているチャンネルのすべてが含まれます。
Disabled channels	アドレス指定可能なチャンネルのうち、物理的にダウンしているか、 <b>shutdown</b> コマンドまたは <b>busyout</b> コマンドで管理上無効に設定されているチャンネルの数。
Pending channels	ロードウェアダウンロードで保留中のアドレス指定可能なチャンネル数。
Free channels	アドレス指定可能な空きチャンネル数。
Addressable channels	H.323 などの特定タイプのダイヤルアップサービスに使用できるチャンネル数。これには、単純な旧式の電話サービス (POTS) のダイヤルプランプロファイルに関連付けられているすべての DS0 リソースが含まれます。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>resource threshold</b>	ゲートウェイが、当該ゲートウェイのゲートキーパーに対して H.323 リソースの可用性を報告するよう設定します。
<b>show call resource voice threshold</b>	H.323 ゲートウェイのしきい値構成設定とステータスを表示します。

# show call resource voice threshold

H.323 ゲートウェイのしきい値設定およびステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show call resource voice threshold** コマンドを使用します。

**show call resource voice threshold** [{ds0|dsp}]

## 構文の説明

<b>ds0</b>	(任意) 音声デジタル信号レベル 0 (DS0) のリソース統計情報を指定します。
<b>dsp</b>	(任意) 音声デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のリソース統計情報を指定します。

## コマンドモード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)T	このコマンドが導入されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(5)XM2 に統合されました
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)XB1 に統合されました。
12.4(22)T	このコマンドが変更されました。キーワード <b>ds0</b> および <b>dsp</b> が追加されました。

## 使用上のガイドライン

**show call resource voice threshold** コマンドを使用すると、**resource threshold** コマンドで設定された H.323 リソースしきい値を表示できます。

## 例

次に示すのは、**show call resource voice threshold** コマンドで H.323 ゲートウェイのリソースしきい値の設定およびステータスを表示した出力例です。

```
Router# show call resource voice threshold
Resource Monitor - Dial-up Resource Threshold Information:
DS0 Threshold:
Client Type: h323
High Water Mark: 70
Low Water Mark: 60
Threshold State: init
DSP Threshold:
Client Type: h323
High Water Mark: 70
Low Water Mark: 60
Threshold State: low_threshold_hit
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 10 : show call resource voice threshold のフィールドの説明

フィールド	説明
High Water Mark	このリソース使用率に達すると、H.323 リソース使用率が高い旨を示すメッセージがトリガーされます。指定できる範囲は1～100です。値100は、リソースが使用できない状態を示します。デフォルトは90です。
Low Water Mark	このリソース使用率に達すると、H.323 リソースの使用率が高使用率水準を下回った旨を示すメッセージがトリガーされます。指定できる範囲は1～100です。デフォルト値は90です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>resource threshold</b>	ゲートウェイが、当該ゲートウェイのゲートキーパーに対してH.323 リソースの可用性を報告するよう設定します。
<b>show call resource voice stats</b>	H.323 ゲートウェイのリソース統計を表示します。

# show call rsvp-sync conf

Resource Reservation Protocol (RSVP) 同期の設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show call rsvp-sync conf** コマンドを使用します。

## show call rsvp-sync conf

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(3)XII	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200、Cisco MC3810、Cisco AS5300、および Cisco AS5800 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.1(5)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800 および Cisco AS5850 はサポートされていません。
12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show call rsvp-sync conf
VoIP QoS: RSVP/Voice Signaling Synchronization config:
Overture Synchronization is ON
Reservation Timer is set to 10 seconds
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 11 : show call rsvp-sync conf のフィールドの説明

フィールド	説明
Overture Synchronization is ON	RSVP 同期が有効になっているかどうかを示します。
Reservation Timer is set to xx seconds	RSVP 予約タイマーに設定されている秒数。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call rsvp -sync</b>	RSVP と H.323 音声シグナリングプロトコル間の同期を有効化します。

コマンド	説明
<b>call rsvp -sync resv-timer</b>	RSVP 予約セットアップのタイマーを設定します。
<b>debug call rsvp -sync events</b>	RSVP 同期中に発生するイベントを表示します。
<b>show call rsvp -sync stats</b>	RSVP 予約を試行したコールの統計を表示します。

## show call rsvp-sync stats

Resource Reservation Protocol (RSVP) の予約を試行したコールの統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show call rsvp-sync stats** コマンドを使用します。

### show call rsvp-sync stats

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(3)XII	このコマンドが導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.1(5)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

#### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show call rsvp-sync stats
VoIP QoS:Statistics Information:
Number of calls for which QoS was initiated      : 18478
Number of calls for which QoS was torn down     : 18478
Number of calls for which Reservation Success was notified : 0
Total Number of PATH Errors encountered        : 0
Total Number of RESV Errors encountered        : 0
Total Number of Reservation Timeouts encountered : 0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 12: show call rsvp-sync stats のフィールドの説明

フィールド	説明
Number of calls for which QoS was initiated	RSVP セットアップが試行されたコールの数。
Number of calls for which QoS was torn down	確立された RSVP 予約が解除されたコールの数。
Number of calls for which Reservation Success was notified	RSVP 予約が正常に確立されたコールの数。
Total Number of PATH Errors encountered	発生したパスエラー数。
Total Number of RESV Errors encountered	発生した予約エラー数。

フィールド	説明
Total Number of Reservation Timeouts encountered	予約タイマーの期限が切れる前に予約設定が完了しなかったコールの数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call rsvp -sync</b>	RSVP と H.323 音声シグナリングプロトコル間の同期を有効化します。
<b>call rsvp -sync resv-timer</b>	RSVP 予約セットアップのタイマーを設定します。
<b>debug call rsvp -sync events</b>	RSVP 同期中に発生するイベントを表示します。
<b>show call rsvp -sync conf</b>	RSVP 同期設定を表示します。

## show call spike status

着信コールに設定されたコールスパイクのしきい値および統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show call spike status** コマンドを使用します。

**show call spike status [dial-peer tag]**

構文の説明	<b>dial-peer</b>	(任意) 単一のダイヤルピアの設定情報を表示します。
	<b>tag</b>	(任意) ダイヤルピアの識別番号を指定します。範囲は 1 ~ 2147483647 です。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされていませんでした。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1750 および Cisco 1751 に導入されました。このリリースでは、このコマンドは他のプラットフォームでサポートされていませんでした。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。このリリースは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 ではサポートされていませんでした。
	12.2(11)T	このリリースで、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートが追加されました。
	15.1(3)T	このコマンドが変更されました。このコマンドの出力フィールドが変更され、ダイヤルピア別の出力が追加されました。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show call spike status
Call Spiking:Configured
Call spiking :NOT TRIGGERED
total call count in sliding window ::20
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 13: show call spike status のフィールドの説明

フィールド	説明
Call Spiking	コールスパイクの現在有効な状態であるかどうか。
Call Spiking	コールスパイク制限がトリガーされたかどうかの詳細。
total call count in sliding window	スパイク間の間隔中のコール数。

```
Router# show call spike status dial-peer 400
TAG          CONFIG    SPIKED TOTAL REJECTED CALLS    REJECTED CALLS
400          YES        NO      4                0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 14: show call spike status (dial peer) のフィールドの説明

フィールド	説明
TAG	ダイヤルピアタグ。
CONFIG	<b>call spike</b> コマンドが設定されているかどうかを表示します。
SPIKED	コールスパイク制限がトリガーされたかどうかの詳細。
TOTAL REJECTED CALLS	指定したダイヤルピアのコールスパイクが原因で拒否されたコール数を表示します。
REJECTED CALLS	コールスパイクがトリガーされた時点からコールスパイク制御が解除されるまでの間に、拒否されたコールの数を表示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call spike</b>	短時間の間の着信コール数制限を設定します。

## show call threshold

有効になっているトリガー、設定されているトリガーの現在の値、およびグローバルリソースとインターフェイスリソースに対して発信されたアプリケーションプログラミング インターフェイス（API）呼び出しの数を表示するには、特権 EXEC モードで **show call threshold** コマンドを使用します。

**show call threshold {config|status [unavailable]|stats}**

構文の説明	オプション	説明
	<b>config</b>	現在のしきい値設定を表示します。
	<b>status</b>	設定されたすべてのトリガーのステータス、およびCPUが使用可能かどうかを表示します。
	<b>unavailable</b>	(任意) すべての使用できないリソースのステータスを表示します。
	<b>stats</b>	API 呼び出しの統計（リソースベースの測定値）を表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350 および Cisco AS5400 プラットフォームではサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1750 および Cisco 1751 に導入されました。このリリースでは、このコマンドは他のプラットフォームでサポートされていません。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。このリリースは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 ではサポートされていません。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850 に導入されました。
15.2(2)T	このコマンドが変更されました。出力が変更され、設定された帯域幅のしきい値、帯域幅の可用性、およびコール アドミッション コントロールの統計情報が表示されるようになりました。

### 例

次に、**show call threshold config** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call threshold config
```

```
Some resource polling interval:
```

```
  CPU_AVG interval: 60
```

```
  Memory interval: 5
```

```
IF          Type          Value  Low   High  Enable
-----
Serial3/1:23 int-calls    0      107  107  N/A
N/A         cpu-avg     0       70   90   busy&treat
```

次に、**show call threshold status** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call threshold status
```

```
Status  IF          Type          Value  Low   High  Enable
-----
Avail   N/A         total-calls   0      5    5000  busyout
Avail   N/A         cpu-avg       0      5    65    busyout
```

次に、**show call threshold status unavailable** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call threshold status unavailable
```

```
Unavailable configured resources at the current time:
```

```
IF          Type          Value  Low   High  Enable
-----
```

次に、**show call threshold stats** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call threshold stats
```

```
Total resource check: 0
```

```
  successful: 0
```

```
  failed: 0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 15: show call threshold のフィールドの説明

フィールド	説明
CPU_AVG interval	設定されたトリガー CPU_AVG の間隔。
Memory interval	設定されたトリガー Memory の間隔。
IF	インターフェイスのタイプと番号。
Type	リソースのタイプ。
Value	下限しきい値および上限しきい値と照合するコールの値。
Low	下限しきい値。
High	上限しきい値。

フィールド	説明
Enable	ビジーアウトと <b>call treatment</b> コマンドが有効になっているかどうかを示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call threshold</b>	リソースを有効化し、関連するパラメータを定義します。
<b>call threshold poll-interval</b>	CPUまたはメモリに対するポーリング間隔のしきい値を有効化します。
<b>clear call threshold</b>	有効になっているトリガーと関連するパラメータをクリアします。

# show call treatment

コール処理の構成と、リソースの可用性に基づくコール処理の統計を表示するには、特権EXECモードで **show call treatment** コマンドを使用します。

**show call treatment {config|stats}**

構文の説明	config	stats
	コール処理の構成を表示します。	
		リソースの可用性に基づくコール処理の統計を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされていませんでした。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1750 および Cisco 1751 に導入されました。このリリースでは、このコマンドは他のプラットフォームでサポートされていませんでした。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。このリリースは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 ではサポートされていません。
	12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 でサポートされています。

## 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show call treatment config
Call Treatment Config
-----
Call treatment is OFF.
Call treatment action is: Reject
Call treatment disconnect cause is: no-resource
Call treatment ISDN reject cause-code is: 41
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 16: show call treatment config のフィールドの説明

フィールド	説明
Call treatment is:	コール処理の状態 (ON または OFF)。
Call treatment action is:	コール処理に割り当てられたアクショントリガー。
Call treatment disconnect cause is:	切断の理由。
Call treatment ISDN reject cause-code is:	割り当てられた拒否コード番号。

次に、**show call treatment** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show call treatment stats
Call Treatment Statistics
-----
Total Calls by call treatment: 0
Calls accepted by call treatment: 0
Calls rejected by call treatment: 0
Reason          Num. of calls rejected
-----
cpu-5sec:       0
cpu-avg:        0
total-mem:      0
io-mem:         0
proc-mem:       0
total-calls:    0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 17: show call treatment stats のフィールドの説明

フィールド	説明
Total Calls by call treatment:	受信および処理されたコールの数。
Calls accepted by call treatment:	処理パラメータを通過したコール。
Calls rejected by call treatment:	処理パラメータを通過しなかったコール。
cpu-5sec	cpu-5sec パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。
cpu-avg	cpu-avg パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。
total-mem	total-mem パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。
io-mem	io-mem パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。

フィールド	説明
proc-mem	proc-mem パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。
total_calls	total-calls パラメータを通過しなかったために拒否されたコールの数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>call treatment on</b>	ローカルリソースが使用できない場合にコールを処理するためのコール処理を有効化します。
<b>call treatment action</b>	ローカルリソースが使用できない場合にルータが実行するアクションを構成します。
<b>call treatment cause-code</b>	ローカルリソースが使用できない場合の発信者に対する切断の理由を指定します。
<b>call treatment isdn-reject</b>	ローカルリソースが使用できない場合の ISDN コール拒否の原因コードを指定します。
<b>clear call treatment stats</b>	コール処理統計をクリアします。

## show call-router routes

現在のボーダーエレメント (BE) にキャッシュされているルートを表示するには、EXEC モードで `show call-router routes` を使用します。

**show call-router routes** [{static | dynamic | all}]

### 構文の説明

<b>static</b>	ボーダーエレメントにプロビジョニングされた記述子。
<b>dynamic</b>	動的に学習された記述子。
<b>all</b>	静的記述子と動的記述子の両方。

### コマンドデフォルト

すべて (All)

### コマンドモード

EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

### 例

次の例は、このコマンドの出力例です。

```
Router# show call-router routes
Static Routes:
=====
DescriptorID= 6561676C650000000000000000000000A
lastChanged = 19930301063311
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.64 :2099      5553122
Dynamic Routes:
=====
DescriptorID= 506174726F6E6F7573000000000000002
lastChanged = 19930228190012
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.65 :2099      310
DescriptorID= 506174726F6E6F7573000000000000003
lastChanged = 19930228190012
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.65 :2099      555301
DescriptorID= 506174726F6E6F7573000000000000004
lastChanged = 19930228190012
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.65 :2099      555302
DescriptorID= 506174726F6E6F7573000000000000005
```

```

lastChanged = 19930228190012
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.65 :2099      818
DescriptorID= 506174726F6E6F757300000000000001
lastChanged = 19930228190012
IP addr      :port      Prefix
172.18.195.65 :2099      1005

```

フィールドの説明は自明のため省略します。

#### 関連コマンド

Command	Description
<b>show call-router active</b>	進行中の音声コールのアクティブなコール情報を表示します。
<b>show call-router history</b>	VoIP コール履歴のテーブルを表示します。
<b>show call-router status</b>	Annex G BE のステータスを表示します。
<b>show dial-peer voice</b>	ダイヤルピアの設定情報を表示します。
<b>show num-exp</b>	VoIP の番号拡張の設定方法を表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

## show call-router status

Annex G ボーダーエレメントのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show call-router status** コマンドを使用します。

**show call-router status [neighbors]**

### 構文の説明

<b>neighbors</b>	(任意) ネイバーボーダーエレメントのステータスを表示します。
------------------	---------------------------------

### コマンドモード

ユーザー EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、キーワード <b>neighbors</b> が追加されました。

### 例

次の例は、Annex G ボーダーエレメントのステータスを表示したものです。この例では、2 つのネイバーのステータスが表示されている点に注意してください。

```
Router# show call-router status neighbors
ANNEX-G CALL ROUTER STATUS:
=====
Border Element ID Tag   : Celine
Domain Name             : Celine-Domain
Border Element State    : UP
Border Element Local IP : 172.18.193.31:2099
Advertise Policy        : STATIC descriptors
Hopcount Value          : 7
Descriptor TTL          : 3180
Access Policy           : Neighbors only
Current Active Calls    : 0
Current Calls in Cache  : 0
Cumulative Active Calls : 0
Usage Ind Messages Sent : 0
Usage Ind Cfm Rcvd     : 0
IRRs Received           : 0
DRQs Received           : 0
Usage Ind Send Retrys   : 0
NEIGHBOR INFORMATION:
=====
Local Neighbor ID      : (none)
Remote Element ID     : (unknown)
Remote Domain ID      : (unknown)
IP Addr                : 1.2.3.4:2099
Status                 : DOWN
Caching                : OFF
```

```

Query Interval      : 30 MIN (querying disabled)
Usage Indications  :
  Current Active Calls : 0
  Retry Period         : 600 SEC
  Retry Window        : 3600 MIN
Service Relationship Status: ACTIVE
  Inbound Service Relationship : DOWN
    Service ID       : (none)
    TTL              : 1200 SEC
  Outbound Service Relationship : DOWN
    Service ID       : (none)
    TTL              : (none)
  Retry interval     : 120 SEC (0 until next attempt)

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 18: show call-router status のフィールドの説明

フィールド	説明
Border Element ID Tag	ボーダーエレメントの識別子。
Border Element State	ボーダーエレメントが実行中かどうかを示します。
Border Element Local IP	ボーダーエレメントのローカル IP アドレス。
Advertise Policy	当該ボーダーエレメントがネイバーにアドバタイズする記述子のタイプ。デフォルトは <b>static</b> です。その他の値は <b>dynamic</b> および <b>all</b> です。
Hopcount Value	アドレス解決要求を転送できるボーダーエレメントホップの最大数。デフォルトは 7 です。
Descriptor TTL	ネイバーからのルートが有効であると見なされる存続可能時間の値 (秒単位)。範囲は 1 ~ 2147483647 です。デフォルトは 1800 (30 分) です。
Access Policy	要求を受け入れるよう、ネイバーを明示的に設定する必要があります。
Local Neighbor ID	サービス関係でレポートされるドメイン名。
Service Relationship Status	2 つのボーダーエレメント間のサービス関係がアクティブな状態です。
Inbound Service Relationship	インバウンド存続可能時間 (TTL) 値 (秒単位)。範囲は 1 ~ 4294967295 です。
Outbound Service Relationship	アウトバウンド関係の確立時間を秒単位で指定します。値の範囲は 1 ~ 65535 です。
Retry interval	配信試行間の再試行値 (秒単位)。範囲は 1 ~ 3600 です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>advertise</b>	当該ボーダーエレメントがネイバーにアドバタイズする記述子のタイプを制御します。
<b>call -router</b>	Annex G ボーダーエレメントコンフィギュレーションコマンドを有効化します。
<b>hopcount</b>	アドレス解決要求を転送できるボーダーエレメントホップの最大数を指定します。
<b>local</b>	ボーダーエレメントがリモートボーダーエレメントとの連携時に使用するローカルドメイン (IP アドレスやポートボーダーエレメントなど) を定義します。
<b>shutdown</b>	Annex G ボーダーエレメントをシャットダウンします。
<b>ttl</b>	アドバタイズメントの有効期限タイマーを設定します。

## show ccm-manager

Cisco CallManager サーバーと、各サーバーの現在のステータスおよび可用性を一覧表示するには、特権 EXEC モードで **show ccm-manager** コマンドを使用します。

**show ccm-manager** [**{backhaul | config-download | fallback-mgcp | hosts | music-on-hold | redundancy | download-tones** **{c1 | c2}}**]

構文の説明	
<b>backhaul</b>	(任意) バックホールリンクに関する情報を表示します。
<b>config-download</b>	(任意) Media Gateway Control Protocol (MGCP) および Skinny Client Control Protocol (SCCP) 設定のダウンロードステータスに関する情報を表示します。
<b>fallback-mgcp</b>	(任意) MGCP ゲートウェイのフォールバック機能のステータスを表示します。
<b>hosts</b>	(任意) 同一ネットワーク内に設定されている各 Cisco CallManager サーバーを、動作ステータスおよびホスト IP アドレスとともに一覧表示します。
<b>music-on-hold</b>	(任意) 任意の時点におけるゲートウェイ内のすべてのマルチキャスト保留音 (MOH) セッションに関する情報を表示します。
<b>redundancy</b>	(任意) 冗長リンクポートやフェールオーバー間隔、キープアライブ間隔、MGCP トラフィック時間、スイッチオーバー時間、スイッチバックモードなどといった、ホストのフェールオーバーモードおよびステータス情報を表示します。
<b>download-tones c1   c2</b>	(任意) ゲートウェイにダウンロードされた各カスタムトーンを表示します。カスタムトーン値 c1 または c2 を入力すると、表示するトーン情報を指定できます。

**コマンド デフォルト** 任意のキーワードを1つも指定しなかった場合は、すべてのキーワードに関連する情報が表示されます。

**コマンド モード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(3)T	このコマンドが Cisco CallManager バージョン 3.0 および Cisco VG200 に導入されました。
	12.2(2)XA	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。

リリース	変更内容
12.2(2)XN	このコマンドが変更され、拡張されたMGCP音声ゲートウェイの相互運用性が、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズおよび Cisco VG200 の Cisco CallManager バージョン 3.1 でサポートされるようになりました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11) および Cisco CallManager バージョン 3.2 に統合され、Cisco IAD2420 シリーズに導入されました。
12.2(15)ZJ	キーワード download-tones [ c1   c2 ] が、Cisco 2610XM、Cisco 2611XM、Cisco 2620XM、Cisco 2621XM、Cisco 2650XM、Cisco 2651XM、Cisco 2691、Cisco 3640A、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 の各プラットフォームに追加されました。
12.3(4)T	当該キーワードが、Cisco IOS リリース 12.3(4)T に統合されました。
12.3(14)T	SCCP 自動設定に関連する新しい出力が追加されました。
12.4(15)XY	表示出力が変更され、許容される TFTP ダウンロード失敗回数が表示される様になりました。

**使用上のガイドライン** `show ccm-manager config-download` コマンドを使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバーのステータス、および自動ダウンロードの情報と統計を確認できます。

## 例

次の出力例は、カスタムトーン 1 「Hong Kong」 に設定された振幅、周波数およびパターンを表示したものです。

```
Router# show ccm-manager download-tones c1
!
Custom Tone 1 : Hong Kong
Pulse dial:normal, Percent make:35%, DTMF low Amp.= 65424, high Amp.= 65446, Pcm:u-Law
FXS FXO E&M FXS FXO E&M
Dual Tone DR NF FOF FOS AOF AOF AOF AOS AOS AOS ONTF OTF ONTS OFTS ONTT OFTT ONT4 OFT4
(optional) FOF2 FOS2 FOF3 FOS3 FOF4 FOS4 FOT FO4 AOT AO4 RCT1 RCT2 RCT3 RCT4
BUSY 0 2 480 620 -120 -120 -120 -120 -120 -120 500 500 0 0 0 0 0 0
RING_BACK 0 2 440 520 -120 -120 -120 -120 -120 -120 400 200 400
3000
CONGESTION 0 2 480 620 -200 -200 -200 -240 -240 -240 250 250 0
0
NUMBER_UNOBTAINABLE 0 2 480 620 -120 -120 -120 -120 -120 -120 65535 0 0
0
DIAL_TONE 0 2 350 440 -150 -150 -150 -150 -150 -150 65535 0 0
0
DIAL_TONE2 0 2 350 440 -150 -150 -150 -150 -150 -150 65535 0 0
0
OUT_OF_SERVICE 0 1 950 0 -150 -150 -150 0 0 0 330 330 0
0
ADDR_ACK 0 1 600 0 -240 -240 -240 0 0 0 125 125 125
65535
DISCONNECT 0 1 600 0 -150 -150 -150 0 0 0 330 330 330
65535
OFF_HOOK_NOTICE 0 2 1400 2040 -240 -240 -240 -240 -240 -240 100 100 0
0
OFF_HOOK_ALERT 0 2 1400 2040 -240 -240 -240 -240 -240 -240 100 100 0
```

```

0
WAITING          0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
CONFIRM          0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
CNFWRN_J        0 1  950  0 -170 -170 -190  0  0  0  100  100  100
65535
CNFWRN_D        0 1  600  0 -170 -170 -190  0  0  0  100  100  100
65535
STUTT_DIALTONE  0 2  350  440 -150 -150 -150 -150 -150 -150  100  100  100
100 100 100 65535  0
PERM_SIG_TONE   0 1  480  0 -170 -170 -170  0  0  0  65535  0  0
0
WAITING1         0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
WAITING2         0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
WAITING3         0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
WAITING4         0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
MSGWAIT_IND     0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
OFF_HOOK_WARN   0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
0
Sequence Tone   DR NF F1C1  F2C1  AOF  AOS  C1ONT C1OFT C2ONT C2OFT C3ONT C3OFT
C4ONT C4OFT F1C2  F2C2  F1C3  F2C3  F1C4  F2C4
INTERCEPT    0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
TONE_ON_HOLD    0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
NO_CIRCUIT      0 0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0  0
Legend:
DR: direction NF: number of frequency FO<F,S,T,4>: frequency of<1st,2nd,3rd,4th>
AO<F,S,T,4>: amplitude of<1st,2nd,3rd,4th>
FOF<1-4>: frequency of 1st, cadence<1-4> FOS<1-4>: frequency of 2nd, cadence<1-4>
RCT<1-4>: repeat count for cadence<1-4> F(1-4)<C<1-4> : frequency<1-4> of cadence<1-4>
C<1-4>ONT: cadence<1-4> on time C<1-4>OFT: cadence<1-4> off time

```

以下の3つの表に、トーンがゲートウェイに自動的にダウンロードされた後に表示される、重要なフィールドの説明を示します。

表 19: show ccm-manager download-tones の重要な出力フィールド

フィールド	説明
Percent make	Make の比率で表されるパルス比。
DTMF low Amp.	低周波レベル。
high Amp.	高周波レベル。
Pcm	パルス符号変調 (mu-law または a-law)。

表 20: show ccm-manager download-tones のデュアルトーンに関する出力フィールド

Dual Tone フィールド	説明
DR	PSTN 方向 (0) またはパケットネットワーク方向 (1)。
NF	周波数 (1 ~ 4)。

Dual Tone フィールド	説明
FOF	第1コンポーネントの周波数 (Hz 単位)。
FXS AOF	Foreign Exchange Station (FXS) の第1コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
FXO AOF	Foreign Exchange Office (FXO) の第1コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
E&M AOF	受送信 (E&M) の第1コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
FXS AOS	FXS の第2コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
FXO AOS	FXO の第2コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
E&M AOS	E&M の第2コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
ONTF	オンタイム。第1周波数のトーン生成時間 (ミリ秒)。
OFTF	オフタイム。第1周波数の無音時間 (ミリ秒)。
ONTS	オンタイム。第2周波数のトーン生成時間 (ミリ秒)。
OFTS	オフタイム。第2周波数の無音時間 (ミリ秒)。
ONTT	オンタイム。第3周波数のトーン生成時間 (ミリ秒)。
OFTT	オフタイム。第3周波数の無音時間 (ミリ秒)。
ONT4	オンタイム。第4周波数のトーン生成時間 (ミリ秒)。
OFT4	オフタイム。第4周波数の無音時間 (ミリ秒)。
FOF2	第2パターンの第1コンポーネントの周波数。
FOS2	第2パターンの第2コンポーネントの周波数。
FOF3	第3パターンの第1コンポーネントの周波数。
FOS3	第3パターンの第2コンポーネントの周波数。
FOF4	第4パターンの第1コンポーネントの周波数。
FOS4	第4パターンの第2コンポーネントの周波数。
FOT	第3コンポーネントの周波数 (ヘルツ単位)。
FO4	第4コンポーネントの周波数 (ヘルツ単位)。
AOT	第3コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。

Dual Tone フィールド	説明
AO4	第 4 コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535 = +3 dBm0)。
RCT1	第 1 パターンの反復数。
RCT2	第 2 パターンの反復数。
RCT3	第 3 パターンの反復数。
RCT4	第 4 パターンの反復数。

表 21 : show ccm-manager download-tones のシーケンスストーンに関する出力フィールド

Sequence Tone フィールド	説明
DR	PSTN 方向 (0) またはパケットネットワーク方向 (1)。
NF	周波数 (1 ~ 4)。
F1C1	パターン 1 の周波数 1。
F2C1	パターン 1 の周波数 2。
AOF	第 1 コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535)。
AOS	第 2 コンポーネントの振幅 (1 ~ 65535)。
C1ONT	パターン 1 のオンタイム。
C1OFT	パターン 1 のオフタイム。
C2ONT	パターン 2 のオンタイム。
C2OFT	パターン 2 のオフタイム。
C3ONT	パターン 3 のオンタイム。
C3OFT	パターン 3 のオフタイム。
C4ONT	パターン 4 のオンタイム。
C4OFT	パターン 4 のオフタイム。
F1C2	パターン 2 の周波数 1。
F2C2	パターン 2 の周波数 2。
F1C3	パターン 3 の周波数 1。
F2C3	パターン 3 の周波数 2。

Sequence Tone フィールド	説明
F1C4	パターン 4 の周波数 1。
F2C4	パターン 4 の周波数 2。

次に示す出力例は、**show ccm-manager** コマンドで Cisco Unified Communications Manager プライマリサーバーとバックアップサーバーの両方のステータスおよび可用性を表示したものです。

```

Router# show ccm-manager
MGCP Domain Name: Router2821.cisco.com
Priority      Status      Host
=====
Primary      Registered  10.78.236.222
First Backup  None
Second Backup None
Current active Call Manager:  10.78.236.222
Backhaul/Redundant link port: 2428
Failover Interval:           30 seconds
Keepalive Interval:          15 seconds
Last keepalive sent:         21:48:37 UTC Nov 4 2007 (elapsed time: 00:00:15)
Last MGCP traffic time:      21:48:51 UTC Nov 4 2007 (elapsed time: 00:00:02)
Last failover time:          None
Last switchback time:        None
Switchback mode:             Graceful
MGCP Fallback mode:          Not Selected
Last MGCP Fallback start time: None
Last MGCP Fallback end time:  None
MGCP Download Tones:         Disabled
TFTP retry count to shut Ports: 3
PRI Backhaul Link info:
  Link Protocol:              TCP
  Remote Port Number:         2428
  Remote IP Address:          172.20.71.38
  Current Link State:         OPEN
  Statistics:
    Packets recvd:            1
    Recv failures:            0
    Packets xmitted:          3
    Xmit failures:            0
  PRI Ports being backhauled:
    Slot 1, port 1
MGCP Download Tones:          Enabled
Configuration Auto-Download Information
=====
Current version-id: {1645327B-F59A-4417-8E01-7312C61216AE}
Last config-downloaded:00:00:49
Current state: Waiting for commands
Configuration Download statistics:
  Download Attempted          : 6
  Download Successful         : 6
  Download Failed             : 0
  Configuration Attempted    : 1
  Configuration Successful    : 1
  Configuration Failed(Parsing): 0
  Configuration Failed(config): 0
Last config download command: New Registration
Configuration Error History:
FAX mode: cisco

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 22: show ccm-manager のフィールドの説明

フィールド	説明
MGCP Domain Name (system)	ネットワークノードのドメイン名を IP アドレスに変換するために、インターネットで使用されるシステム。
Priority	ネットワーク内に存在する各 Cisco CallManager サーバーの優先順位。表示される優先順位には、primary (プライマリ)、first backup (第 1 バックアップ) および second backup (第 2 バックアップ) があります。
Status	Cisco Unified Communications Manager サーバーの現在の使用状況。Registered (登録済み)、Idle (アイドル)、Backup Polling (バックアップポーリング中)、および Undefined (未定義) の各値で表示されます。
Host	Cisco CallManager サーバーのホスト IP アドレス。
Current active Call Manager	アクティブな Cisco Communications Manager サーバーの IP アドレス。このフィールドには、Primary、First Backup および Second Backup のいずれか 1 つの Cisco Communications Manager サーバーの IP アドレスが表示されます。
Backhaul/Redundant link port	Cisco CallManager サーバーが使用するポート。
Failover Interval	ゲートウェイがバックアップ Cisco CallManager へと切り替える前に、ゲートウェイが現在アクティブな Cisco CallManager からメッセージを受信しない状態が許容される最大時間。
Keepalive Interval	指定された時間内にゲートウェイが現在アクティブな Cisco Communications Manager サーバーからメッセージを受信しなかった場合において、ゲートウェイが Cisco Communications Manager サーバーが動作可能かどうかを判別するために当該サーバーにキープアライブメッセージを送信するまでの間隔。
Last keepalive sent	時 (24 時間形式) ・分・秒で表される、前回のキープアライブメッセージが送信された時刻。
Last MGCP traffic time	時 (24 時間形式) ・分・秒で表される、前回の MGCP トラフィックメッセージが送信された時刻。

フィールド	説明
Switchback mode	Cisco CallManager バックアップサーバーの使用中に Cisco CallManager プライマリサーバーが再び使用可能になった場合に、Cisco CallManager プライマリサーバーをいつ使用するかを定めたスイッチバックモード設定を表示します。  このフィールドに表示される値は、Graceful (グレースフル)、Immediate (即時)、Schedule-time (予定時刻)、および Uptime-delay (アップタイム遅延) です。
MGCP Fallback mode	MGCP フォールバックモードの設定を表示します。「Not Selected」と表示された場合、フォールバックは設定されていない状態です。「Enabled/OFF」と表示された場合、フォールバックは設定済みであるものの、有効になっていない状態です。「Enabled/ON」と表示された場合、フォールバックは設定済みであり、かつ有効になっている状態です。
Last MGCP Fallback start time	時 (24 時間形式) ・分・秒で表される、前回のフォールバックの開始タイムスタンプ。
Lasts MGCP Fallback end time	時 (24 時間形式) ・分・秒で表される、前回のフォールバックの終了タイムスタンプ。
MGCP Download Tones	カスタマイズトーンのダウンロードが有効になっているかどうかを表示します。
TFTP retry count to shut Ports	エンドポイントがシャットダウンされるまでに許容される TFTP ダウンロードの失敗回数。

次に、**show ccm-manager config-download** コマンドで SCCP ダウンロードのステータスを表示した出力例を示します。

```
Router# show ccm-manager config-download
Configuration Auto-Download Information
=====
Current version-id:{4171F93A-D8FC-49D8-B1C4-CE33FA8095BF}
Last config-downloaded:00:00:47
Current state:Waiting for commands
Configuration Download statistics:
  Download Attempted           :6
  Download Successful          :6
  Download Failed              :0
  Configuration Attempted     :1
  Configuration Successful     :1
  Configuration Failed(Parsing):0
  Configuration Failed(config) :0
Last config download command:New Registration
SCCP auto-configuration status
=====
Registered with Call Manager: No
Local interface: FastEthernet0/0 (000c.8522.6910)
Current version-id: {D3A886A2-9BC9-41F8-9DB2-0E565CF51E5A}
```

```

Current config applied at: 04:44:45 EST Jan 9 2003
Gateway downloads succeeded: 1
Gateway download attempts: 1
Last gateway download attempt: 04:44:45 EST Jan 9 2003
Last successful gateway download: 04:44:45 EST Jan 9 2003
Current TFTP server: 10.2.6.101
Gateway resets: 0
Gateway restarts: 0
Managed endpoints: 6
Endpoint downloads succeeded: 6
Endpoint download attempts: 6
Last endpoint download attempt: 04:44:45 EST Jan 9 2003
Last successful endpoint download: 04:44:45 EST Jan 9 2003
Endpoint resets: 0
Endpoint restarts: 0
Configuration Error History:
sccp ccm CCM-PUB7 identifier 1
end
controller T1 2/0no shut
controller T1 2/0no shut
controller T1 2/0no shut
isdn switch-type primary-ni
end

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 23: show ccm-manager config-download のフィールドの説明

フィールド	説明
Current state	現状の設定状態。
Download Attempted	ゲートウェイによる構成ファイルダウンロードの試行回数。成功回数および失敗回数が表示されます。
Configuration Attempted	ゲートウェイが構成ファイルに基づいてゲートウェイ構成を試行した回数。成功回数および失敗回数が表示されます。
Managed endpoints	SSCP 制御エンドポイント（アナログ電話機および BRI 電話機）の数。
Endpoint downloads succeeded	ゲートウェイが SSCP 制御エンドポイントの構成ファイルを正常にダウンロードした回数。
Endpoint download attempts	ゲートウェイが SSCP 制御エンドポイントの構成ファイルのダウンロードを試行した回数。
Endpoint resets	SSCP ゲートウェイのリセット回数。
Endpoint restarts	SSCP ゲートウェイの再起動回数。
Configuration Error History	SSCP 自動設定エラーを表示します。

次に、show ccm-manager fallback-mgcp コマンドの出力例を示します。

```
Router# show ccm-manager fallback-mgcp
```

```

Current active Call Manager: 172.20.71.38
MGCP Fallback mode: Enabled/OFF
Last MGCP Fallback start time: 00:14:35
Last MGCP Fallback end time: 00:17:25

```

次の表にモードを示します。次の各モードがあります。

表 24 : *show ccm-manager fallback-mgcp* の各モード

フィールド	説明
MGCP Fallback mode	以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Not Selected -- フォールバックが設定されていません。</li> <li>• Enabled/OFF -- フォールバックは設定済みであるものの、有効になっていない状態です。</li> <li>• Enabled/ON -- フォールバックが設定済みであり、かつ有効になっている状態です。</li> </ul>
Last MGCP Fallback start time	前回のフォールバックの開始タイムスタンプ (hh:mm:ss)。
Last MGCP Fallback end time	前回のフォールバックの終了タイムスタンプ (hh:mm:ss)。

次に、*show ccm-manager music-on-hold* コマンドの出力例を示します。

```

Router# show ccm-manager music-on-hold
Current active multicast sessions :1
Multicast      RTP port   Packets      Call   Codec   Incoming
Address        number     in/out       id     id       Interface
=====
172.20.71.38   2428      5/5         99    g711

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 25 : *show ccm-manager music-on-hold* のフィールドの説明

フィールド	説明
Current active multicast sessions	保留中のアクティブコールの数。
Multicast Address	ゲートウェイが RTP ストリームを取得する、有効なクラス D のアドレス。
RTP port number	ゲートウェイが RTP パケットを受信する、有効な RTP ポート番号。
Packets in/out	デジタルシグナルプロセッサ (DSP) との間で送受信された RTP パケット数。
Call id	保留中のコールのコール ID。
Codec	コーデック番号。

フィールド	説明
Incoming Interface	ゲートウェイがRTPストリームを受信するインターフェイス。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ccm-manager config</b>	XML構成ファイルをダウンロードし、構成のダウンロードを有効にする TFTP サーバーの IP アドレスまたは論理名をローカルの MGCP 音声ゲートウェイに提供します。
<b>debug ccm-manager</b>	Cisco CallManager に関するデバッグ情報を表示します。
<b>show ccm-manager</b>	Cisco CallManager サーバー、および当該サーバーの現在のステータスと可用性を一覧表示します。
<b>show ccm-manager fallback-mgcp</b>	MGCP ゲートウェイのフォールバック機能のステータスを表示します。
<b>show isdn status</b>	Cisco IOS ゲートウェイの ISDN インターフェイスのステータスを表示します。
<b>show mgcp</b>	MGCP の設定情報を表示します。

# show cdapi

コールディストリビュータアプリケーションプログラミングインターフェイス（CDAPI）を表示するには、特権 EXEC モードで **show cdapi** コマンドを使用します。

## show cdapi

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.3(4)T	このコマンドが拡張され、モデムに登録されている V.120 コールタイプが表示されるようになりました。

### 使用上のガイドライン

CDAPI とは、シグナリングスタックとアプリケーション間のインターフェイスとして機能する内部アプリケーションプログラミングインターフェイス（API）を指します。

### 例

次に、**show cdapi** コマンドの出力例を示します。出力には、次の情報が表示されます。

- CDAPI に登録するシグナリングスタック
- CDAPI に登録するアプリケーション
- アクティブコール
- 各アクティブコールのコールタイプ
- 使用中のメッセージバッファ

```
Router# show cdapi
Registered CDAPI Applications/Stacks
=====
Signaling Stack: ISDN
  Interface: Se6/0:23
Application: TSP CDAPI Application Voice
  Application Type(s) : Voice Data Facility Signaling V110 V120
  Application Level   : Tunnel
  Application Mode    : Enbloc
Application: TSP CDAPI Application COT
  Application Type(s) : Cot
  Application Level   : Tunnel
  Application Mode    : Enbloc
Application: CSM
  Application Type(s) : Modem V110 V120
  Application Level   : Basic
  Application Mode    : Enbloc
```

```

Signaling Stack: XCSP
Application: dialer
  Application Type(s) : Data
  Application Level   : Basic
  Application Mode    : Enbloc
Active CDAPI Calls
=====
      Se7/7:23 Call ID = 0x7717, Call Type = V.120, Application = CSM
CDAPI Message Buffers
=====
Free Msg Buffers: 320
Free Raw Buffers: 320
Free Large-Raw Buffers: 120

```

フィールドの説明は自明のため省略します。ただし、次に示す情報が役立つ場合があります。

- **Enbloc** とは、すべてのコール確立情報をセットアップメッセージで送信するモードを指します（コールの確立に追加メッセージを必要とする **overlap** モードの反対）。
- **Cot** とは、**Signaling System 7 (SS7)** ネットワークによって要求される連続性テストをサポートし、回線の確立前にパス上でループバックおよびトーンチェックテストを実行する連続性テスト（**COT**）サブシステムを指します。

#### 関連コマンド

Command	Description
<b>debug cdapi</b>	CDAPIに関する情報を表示します。

## show ces clock-select

指定したポートのネットワーククロック設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show ces clock-select** コマンドを使用します。

**show ces slot/port clock-select**

構文の説明	<i>slot</i>	バックプレーンスロット番号。
	<i>/port</i>	インターフェイスポート番号。スラッシュは入力必須です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(2)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。

### 例

ポート 0 のスロット 1 を指定してこのコマンドを実行した場合の出力例です。

```
Router# show ces 1/0 clock-select
Priority 1 clock source:not configured
Priority 2 clock source:not configured
Priority 3 clock source:ATM1/0 UP
Priority 4 clock source:Local oscillator
Current clock source:ATM1/0, priority:3
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド	Command	Description
	<b>clock-select</b>	OC-3/STM-1 ATM 回線エミュレーション サービス ネットワーク モジュールに必須のクロッキング信号の送信元と優先順位を確立します。

# show connect

ルータ上に設定されているドロップアンドインサート接続の設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show connect** コマンドを使用します。

**show connect** {all | elements | name | id | port {T1 | E1} slot/port}

構文の説明	<b>all</b>	設定済みのすべての接続に関する情報。
	<b>elements</b>	登録されたハードウェアまたはソフトウェアのインターワーキング要素に関する情報。
	<b>name</b>	グローバル コンフィギュレーション コマンド <b>connect</b> を使用して指定された接続に関する情報。入力する名前は大文字と小文字が区別され、設定済みの名前と正確に一致している必要があります。
	<b>id</b>	ID 番号または ID 番号の範囲で指定した接続に関する情報。この ID はルータによって自動的に、1 から順に作成した順番で割り当てられます。この ID を表示するには、 <b>show connect all</b> コマンドを実行します。
	<b>port</b>	コントローラのタイプ (T1 または E1) およびインターフェイスの場所で指定した接続に関する情報。
	<b>T1</b>	T1 コントローラ。
	<b>E1</b>	E1 コントローラ。
	<i>slot/port</i>	接続ステータスを表示したい、T1 コントローラポートまたは E1 コントローラポートの場所。slot および port に入力できる有効な値は <b>0</b> と <b>1</b> です。スラッシュは入力必須です。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(5)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン      このコマンドを使用すると、ドロップアンドインサートをサポートしているモジュラアクセスルータ上におけるドロップアンドインサート接続について表示できます。使用するキーワードに応じて、さまざまな情報がさまざまな形式で表示されます。

## 例

次の例は、異なるキーワードを入力して同じ表形式の情報を表示する方法を示しています。

```
Router# show connect all
ID   Name                Segment 1                Segment 2                State
=====
1    Test                 -T1 1/0 01              -T1 1/1 02              ADMIN UP
2    Test2                -T1 1/0 03              -T1 1/1 04              ADMIN UP
Router# show connect id 1-2
ID   Name                Segment 1                Segment 2                State
=====
1    Test                 -T1 1/0 01              -T1 1/1 02              ADMIN UP
2    Test2                -T1 1/0 03              -T1 1/1 04              ADMIN UP
Router# show connect port t1 1/1
ID   Name                Segment 1                Segment 2                State
=====
1    Test                 -T1 1/0 01              -T1 1/1 02              ADMIN UP
2    Test2                -T1 1/0 03              -T1 1/1 04              ADMIN UP
```

次の例は、特定の接続に関する、使用中のタイムスロット番号やスイッチング要素などの詳細情報を表示したものです。

```
Router# show connect id 2
Connection: 2 - Test2
Current State: ADMIN UP
Segment 1: -T1 1/0 03
  TDM timeslots in use: 14-18 (5 total)
Segment 2: -T1 1/1 04
  TDM timeslots in use: 14-18
Internal Switching Elements: VIC TDM Switch
Router# show connect name Test
Connection: 1 - Test
Current State: ADMIN UP
Segment 1: -T1 1/0 01
  TDM timeslots in use: 1-13 (13 total)
Segment 2: -T1 1/1 02
  TDM timeslots in use: 1-13
Internal Switching Elements: VIC TDM Switch
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>connect</b>	ドロップアンドインサートにおける T1 コントローラポートまたは E1 コントローラポート間での接続を定義します。
<b>tdm-group</b>	TDM クロスコネクットのクリアチャネルグループ (パススルー) を作成するためのタイムスロットリストを設定します。

## show controllers rs366

ビデオ ダイヤリング モジュール (VDM) の RS-366 ビデオインターフェイスに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show controllers rs366** コマンドを使用します。

**show controllers rs366 slot port**

構文の説明	<i>slot</i>	VDM モジュールのスロット位置。有効なエントリは 1 または 2 です。
	<i>port</i>	VDM モジュールの EIA/TIA-366 インターフェイス内のポート位置。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

### 例

次の例は、RS-366 コントローラに関する情報を表示したものです。

```
Router# show controllers rs366 0 1
RS366:driver is initialized in slot 1, port 0:
STATUS STATE LSR LCR ICSR EXT T1 T2 T3 T4 T5
0x02 0x01 0x00 0x50 0xE0 0x00 5000 5000 5000 20000 10000
Dial string:
121C
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 26: show controllers rs366 のフィールドの説明

フィールド	説明
STATUS	前回の割り込みステータス。
STATE	ステートマシンの現在の状態。
LSR	VDM の回線ステータスレジスタ。
LCR	VDM の回線制御レジスタ。
ICSR	VDM の割り込み制御およびステータスレジスタ。
EXT	VDM の拡張レジスタ。

フィールド	説明
T1 ~ T5	ウォッチドッグタイマーのタイムアウト1~タイムアウト5 (ミリ秒単位)。
ダイヤル文字列	ドライバで収集された直近のダイヤル番号。文字列の末尾にある 0xC は、EON (番号の終わり) 文字を示します。

## show controllers timeslots

個別線信号方式（CAS）および ISDN PRI の状態を詳細表示するには、特権 EXEC モードで `show controllers timeslots` コマンドを使用します。

**show controllers t1/e1** *controller-number* **timeslotstimeslot-range**

構文の説明	<b>t1/e1</b> <i>controller-number</i>	CAS タイムスロットまたは ISDN PRI タイムスロットのコントローラ番号。範囲は 0 ~ 7 です。
	<b>timeslots</b> <i>timeslot-range</i>	タイムスロット。E1 の範囲は 1 ~ 31 です。T1 の範囲は 1 ~ 24 です。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	10.0	このコマンドが導入されました。
	12.1(3)T	<b>timeslots</b> キーワードが追加されました。
	12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5400 で実装されました。

使用上のガイドライン      このコマンドを使用すると、CAS チャンネルおよび ISDN PRI チャンネルの状態を詳細表示できます。このコマンドでは、コントローラの DS0 チャンネルがアイドル状態、サービス中状態、メンテナンス状態またはビジーアウト状態にあるかを示します。E1 の統計または T1 リンクの統計を表示するには、**show controllers e1** コマンドまたは **show controllers t1** コマンドを使用します。

例                              次の例は、Cisco AS5300 の T1 PRI カードで CAS が有効状態になっていることを示しています。

```
Router# show controllers timeslots
T1 1 is up:
Loopback: NONE
DS0  Type          Modem  <->  Service  Channel  Rx      Tx
      State          State  State  State   State   A  B  C  D    A  B  C  D
-----
1    cas-modem      1      in    insvc   connected  1  1  1  1    1  1  1  1
2    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
3    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
4    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
5    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
6    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
7    cas            -      -    insvc   idle       0  0  0  0    0  0  0  0
```

```

 8  cas      -      -      insvc      idle      0 0 0 0    0 0 0 0
 9  cas      -      -      insvc      idle      0 0 0 0    0 0 0 0
10  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
11  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
12  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
13  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
14  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
15  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
16  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
17  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
18  cas      -      -      maint      static-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
19  cas      -      -      maint      dynamic-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
20  cas      -      -      maint      dynamic-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
21  cas      -      -      maint      dynamic-bo 0 0 0 0    1 1 1 1
22  unused
23  unused
24  unused

```

次の例は、Cisco AS5300 の T1 PRI カードで ISDN PRI が有効状態になっていることを示しています。

```

T1 2 is up:
Loopback: NONE
DS0 Type           Modem    <->  Service  Channel  Rx      Tx
                  State    State  State    State    A B C D  A B C D
-----
 1  pri           -      -      insvc    idle
 2  pri           -      -      insvc    idle
 3  pri           -      -      insvc    idle
 4  pri           -      -      insvc    idle
 5  pri           -      -      insvc    idle
 6  pri           -      -      insvc    idle
 7  pri           -      -      insvc    idle
 8  pri           -      -      insvc    idle
 9  pri           -      -      insvc    idle
10  pri           -      -      insvc    idle
11  pri           -      -      insvc    idle
12  pri           -      -      insvc    idle
13  pri           -      -      insvc    idle
14  pri           -      -      insvc    idle
15  pri           -      -      insvc    idle
16  pri           -      -      insvc    idle
17  pri           -      -      insvc    idle
18  pri           -      -      insvc    idle
19  pri           -      -      insvc    idle
20  pri           -      -      insvc    idle
21  pri-modem    2      in  insvc    busy
22  pri-modem    1      out insvc    busy
23  pri-digi     -      in  insvc    busy
24  pri-sig      -      -      outofsvc reserved

```

フィールドの説明は自明のため省略します。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show controllers e1</b>	E1 リンクに関する情報を表示します。
<b>show controllers t1</b>	T1 リンクに関する情報を表示します。

# show controllers voice

音声関連ハードウェアに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show controllers voice** コマンドを使用します。

## show controllers voice

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)XQ	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、TDMスイッチのレジスタや、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のホストポートインターフェイス、DSPファームウェアのバージョンなど、音声関連のハードウェアに固有のインターフェイスステータス情報を表示できます。ここで表示される情報は、通常、テクニカルサポートが診断タスクを行う際にのみ役立ちます。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show controllers voice
EPIC Switch registers:
STDA 0xFF STDB 0xFF SARA 0xAD SARB 0xFF SAXA 0xFF SAXB 0x0 STCR 0x3F
MFAIR 0x3F
STAR 0x65 OMDR 0xE2 VNSR 0x0 PMOD 0x4C PBNR 0xFF POFD 0xF0 POFU 0x18
PCSR 0x1 PICM 0x0 CMD1 0xA0 CMD2 0x70 CBNR 0xFF CTAR 0x2 CBSR 0x20 CSCR
0x0
DSP 0 Host Port Interface:
HPI Control Register 0x202
InterfaceStatus 0x2A MaxMessageSize 0x80
RxRingBufferSize 0x6 TxRingBufferSize 0x9
pInsertRx 0x4 pRemoveRx 0x4 pInsertTx 0x6 pRemoveTx 0x6
Rx Message 0:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC7 5F08 91D1 0000 0000 7DF1 69E5 63E1 63E2
0020: 6E7C ED67 DE5D DB5C DC60 EC7E 6BE1 58D3 50CD 4DCE
0040: 50D2 5AE5 7868 DA52 CE4A C746 C647 C94B D25A EAF4
0060: 5DD7 4FCD 4ACA 4ACC 4FD3 5DE8 F769 DC58 D352 D253
0080: D65B E573 6CDF 59D3 4ECF 4FD0
Rx Message 1:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDD 3E48 3B74 0000 0000 3437 3D4C F0C8 BBB5
0020: B2B3 B7BF D25B 4138 3331 3339 435F CFBD B6B2 B1B4
0040: BBC8 7E48 3B34 3131 363D 4FDE C3B9 B3B1 B3B8 C2DB
0060: 533F 3833 3235 3B48 71CC BDB7 B4B5 B8BF CF67 483D
0080: 3836 383C 455B DAC6 BDB9 B9BB
Rx Message 2:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
```

```

0000: 0000 4AC8 5F08 9221 0000 0000 54DA 61F5 EF60 DA53
0020: CF4F CD4E D256 DB63 FCEE 5FDA 55D1 50CF 4FD3 56D8
0040: 5DE1 6E7C EC60 DC59 D655 D456 D85D DF6A F4F4 69E2
0060: 5CDD 5BDC 5BDE 61E9 6DF1 FF76 F16D E96A E566 EA6A
0080: EB6F F16D EF79 F776 F5F5 73F0
Rx Message 3:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDE 3E48 3BC4 0000 0000 C0CC EC54 453E 3C3C
0020: 3F47 56F3 D1C7 C1BF C0C6 CEE1 6752 4A46 4648 4E59
0040: 6FE4 D6CF CDCE D2DA E57E 675E 5B5B 5E62 6B76 FCF6
0060: F6FA 7D75 7373 7BF5 EAE1 DCDA DADD E6FE 6559 514D
0080: 4D4E 5563 EFD9 CDC8 C5C6 CAD1
Rx Message 4:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC6 5F08 9181 0000 0000 DD5B DC5E E161 E468
0020: FAFD 6CE1 5AD3 53D1 53D7 61EC EA59 CF4A C644 C344
0040: CA4E D86C 60D0 48C2 3EBD 3CBD 3EC0 47CF 5976 DF4F
0060: C945 C242 C146 C94E D668 73DB 54CE 4DCC 4DCE 53DB
0080: 64F9 ED63 DC59 DA58 DC5D E46C
Rx Message 5:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDC 3E48 3B24 0000 0000 5B5B 5D62 6A76 FCF5
0020: F5F9 7D78 7374 7CF5 EAE1 DDDA DBDD E7FE 6559 514E
0040: 4D4F 5663 EFD8 CDC8 C6C6 CAD1 E760 4E46 403F 4047
0060: 5173 D5C7 BFBC BCBE C5D4 6D4C 3F3B 3939 3D46 5ADB
0080: C5BC B7B6 B8BD C8E8 4F3F 3835
Tx Message 0:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC6 5F08 9181 0000 003C DD5B DC5E E161 E468
0020: FAFD 6CE1 5AD3 53D1 53D7 61EC EA59 CF4A C644 C344
0040: CA4E D86C 60D0 48C2 3EBD 3CBD 3EC0 47CF 5976 DF4F
0060: C945 C242 C146 C94E D668 73DB 54CE 4DCC 4DCE 53DB
0080: 64F9 ED63 DC59 DA58 DC5D E46C
Tx Message 1:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDC 3E48 3B24 0000 003C 5B5B 5D62 6A76 FCF5
0020: F5F9 7D78 7374 7CF5 EAE1 DDDA DBDD E7FE 6559 514E
0040: 4D4F 5663 EFD8 CDC8 C6C6 CAD1 E760 4E46 403F 4047
0060: 5173 D5C7 BFBC BCBE C5D4 6D4C 3F3B 3939 3D46 5ADB
0080: C5BC B7B6 B8BD C8E8 4F3F 3835
Tx Message 2:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC7 5F08 91D1 0000 003C 7DF1 69E5 63E1 63E2
0020: 6E7C ED67 DE5D DB5C DC60 EC7E 6BE1 58D3 50CD 4DCE
0040: 50D2 5AE5 7868 DA52 CE4A C746 C647 C94B D25A EAF4
0060: 5DD7 4FCD 4ACA 4ACC 4FD3 5DE8 F769 DC58 D352 D253
0080: D65B E573 6CDF 59D3 4ECF 4FD0
Tx Message 3:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDD 3E48 3B74 0000 003C 3437 3D4C F0C8 BBB5
0020: B2B3 B7BF D25B 4138 3331 3339 435F CFBD B6B2 B1B4
0040: BBC8 7E48 3B34 3131 363D 4FDE C3B9 B3B1 B3B8 C2DB
0060: 533F 3833 3235 3B48 71CC BDB7 B4B5 B8BF CF67 483D
0080: 3836 383C 455B DAC6 BDB9 B9BB
Tx Message 4:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC8 5F08 9221 0000 003C 54DA 61F5 EF60 DA53
0020: CF4F CD4E D256 DB63 FCEE 5FDA 55D1 50CF 4FD3 56D8
0040: 5DE1 6E7C EC60 DC59 D655 D456 D85D DF6A F4F4 69E2
0060: 5CDD 5BDC 5BDE 61E9 6DF1 FF76 F16D E96A E566 EA6A
0080: EB6F F16D EF79 F776 F5F5 73F0
Tx Message 5:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDE 3E48 3BC4 0000 003C C0CC EC54 453E 3C3C

```

```

0020: 3F47 56F3 D1C7 C1BF C0C6 CEE1 6752 4A46 4648 4E59
0040: 6FE4 D6CF CDCE D2DA E57E 675E 5B5B 5E62 6B76 FCF6
0060: F6FA 7D75 7373 7BF5 EAE1 DCDA DADD E6FE 6559 514D
0080: 4D4E 5563 EFD9 CDC8 C5C6 CAD1
Tx Message 6:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDA 3E48 3A84 0000 003C E75F 4E46 403F 4147
0020: 5174 D5C7 BFBC BCBE C5D4 6C4C 3F3B 3939 3D46 5BDA
0040: C5BC B7B6 B8BD C8E9 4F3F 3834 3437 3D4C EEC8 BBB5
0060: B2B3 B8BF D35A 4138 3331 3339 435F CEBD B6B1 B1B4
0080: BBC9 7C48 3B34 3131 363D 4FDE
Tx Message 7:
packet_length 100 channel_id 1 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 4AC5 5F08 9131 0000 003C 66DE 66EB 67EE FE6E
0020: F7E7 6B68 E068 EE6A DF5C DF62 EDF1 6FF2 7A78 67DC
0040: 5EDF 62E7 64E6 66E0 7071 EA69 F86E E260 DE5D E665
0060: EB75 F0FB 6DE9 64E4 69E3 66EA 67E9 6DF9 F177 EC6E
0080: EB6E F876 F875 7D6E E966 E05D
Tx Message 8:
packet_length 100 channel_id 2 packet_id 0 process id 0x1
0000: 0000 1CDB 3E48 3AD4 0000 003C C2B9 B3B1 B3B8 C2DC
0020: 523F 3733 3235 3C49 72CB BDB7 B4B5 B8BF CF67 483C
0040: 3836 373C 455C DAC6 BDB9 B9BB C0CC EE54 453E 3C3C
0060: 3F47 56F1 D1C7 C1BF C0C6 CEE1 6651 4A46 4648 4D59
0080: 70E3 D6CF CDCE D2D9 E67E 675E
Bootloader 1.8, Appn 3.1
Application firmware 3.1.8, Built by claux on Thu Jun 17 11:00:05 1999
VIC Interface Foreign Exchange Station 0/0, DSP instance (0x19543C0)
Singalling channel num 128 Signalling proxy 0x0 Signaling dsp 0x19543C0
tx outstanding 0, max tx outstanding 32
ptr 0x0, length 0x0, max length 0x0
dsp_number 0, Channel ID 1
received 0 packets, 0 bytes, 0 gaint packets
0 drops, 0 no buffers, 0 input errors 0 input overruns
650070 bytes output, 4976 frames output, 0 output errors, 0 output
underrun
0 unaligned frames
VIC Interface Foreign Exchange Station 0/1, DSP instance (0x1954604)
Singalling channel num 129 Signalling proxy 0x0 Signaling dsp 0x1954604
tx outstanding 0, max tx outstanding 32
ptr 0x0, length 0x0, max length 0x0
dsp_number 0, Channel ID 2
received 0 packets, 0 bytes, 0 gaint packets
0 drops, 0 no buffers, 0 input errors 0 input overruns
393976 bytes output, 3982 frames output, 0 output errors, 0 output
underrun
0 unaligned frames

```

フィールドの説明は各ハードウェアによって異なり、訓練を受けたテクニカルサポートによる使用を意図しています。

#### 関連コマンド

Command	Description
<b>show dial-peer voice</b>	ダイヤルピアの設定情報とコール統計を表示します。
<b>show interface dspfarm</b>	DRAM、SRAM およびラインカードのリビジョンレベル情報を含む、各種ハードウェア情報を表示します。
<b>show voice dsp</b>	すべての DSP 音声チャネルの現状ステータスを表示します。

Command	Description
show voice port	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

# show crm

キャリアのコールキャパシティに関する統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show crm** コマンドを使用します。

## show crm

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show trunk group** コマンドおよび **show crm** コマンドではいずれも、最大コール数が数値で表示されます。この値は、さまざまな設定手順から取得されます。

- **show trunk group** コマンドでは、Max Calls（コールの最大数）の値は、トランク グループ コンフィギュレーションで実行した **max-calls** コマンドから取得されます。
- **show crm** コマンドでは、Max calls（コールの最大数）は、**trunkgroup**（インターフェイス）コマンドを使用してキャリア ID またはトランクグループラベルがインターフェイスに割り当てられた後に使用可能なチャネルの最大数を示します。

### 例

次の例は、キャリアのコールキャパシティ統計を表示したものです。

```
Router# show crm
Carrier:1411
  Max calls:4
  Max Voice (in) :      4      Cur Voice (in) :      0
  Max Voice (out):     4      Cur Voice (out):     0
  Max Data (in)  :      4      Cur Data (in)  :      0
  Max Data (out) :     4      Cur Data (out) :     0
Trunk Group Label: 100
  Max calls:6
  Max Voice (in) :      6      Cur Voice (in) :      0
  Max Voice (out):     6      Cur Voice (out):     0
  Max Data (in)  :      6      Cur Data (in)  :      0
  Max Data (out) :     6      Cur Data (out) :     0
```

次の表は、この出力に表示される各フィールドをアルファベット順に説明しています。

表 27: show crm のフィールドの説明

フィールド	説明
Carrier	コールを処理するキャリアの ID。
Cur Data (in)	当該キャリアまたはトランクグループによって現在処理されている着信データコールの数。
Cur Data (out)	当該キャリアまたはトランクグループによって現在処理されている発信データコールの数。
Cur Voice (in)	当該キャリアまたはトランクグループによって現在処理されている着信音声コールの数。
Cur Voice (out)	当該キャリアまたはトランクグループによって現在処理されている発信音声コールの数。
Max Calls	当該キャリアまたはトランクグループが処理する最大コール数。
Max Data (in)	当該キャリアまたはトランクグループが処理する着信データコールの最大数。
Max Data (out)	当該キャリアまたはトランクグループが処理する発信データコールの最大数。
Max Voice (in)	当該キャリアまたはトランクグループが処理する着信音声コールの最大数。
Max Voice (out)	当該キャリアまたはトランクグループが処理する発信音声コールの最大数。
Trunk Group Label	コールを処理するトランクグループのラベル。

## 関連コマンド

コマンド	説明
carrier-id (dial-peer)	VoIP コールに関連付けられたキャリアを指定します。
max-calls	トランクグループが処理する最大コール数を指定します。
show trunk group	1 つまたは複数のトランクグループの設定パラメータを表示します。
trunk-group (interface)	インターフェイスをトランクグループに割り当てます。
trunk-group-label (dial-peer)	VoIP コールに関連付けられたトランクグループを指定します。

## show csm

特定のデジタルシグナルプロセッサ (DSP) チャンネル、すべての DSP チャンネル、または特定のモデムまたは DSP チャンネルのコールスイッチングモジュール (CSM) の統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show csm** コマンドを使用します。

### Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバー

```
show csm {call-rate [table] | callre-source | modem [{slot/port | group modem-group-number}] | signaling-channel}
```

### Cisco AS5400 シリーズ ルータ

```
show csm {call rate [table] | call-resource | modem [{slot/port | group modem-group-number}] | signaling-channel | voice slot/port}
```

#### 構文の説明

<b>call-rate</b>	発着信のコールスイッチングレートを表示します。
<b>table</b>	(任意) 数値テーブル形式で発着信のコールスイッチングレートを表示します。
<b>call-resource</b>	CSM コールリソースに関する統計を表示します。
<b>modem</b>	モデムの CSM コール統計を表示します。
<i>slot / port</i>	(任意) 特定モデムの場所 (および ID)。
<b>group</b>	(任意) モデムグループ情報を表示します。
<i>modem -group-number</i>	(任意) 特定のダイヤルピアの場所。範囲は 1 ~ 32767 です。
<b>signaling-channel</b>	CSM シグナリングチャンネルの情報を表示します。
<b>voice</b>	DSP チャンネルの CSM コール統計を表示します。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3 NA	このコマンドが導入されました。
12.0(3)T	このコマンドが変更されました。Cisco AS5300 のポート固有の値が追加されました。
12.0(7)T	このコマンドが変更されました。Cisco AS5800 のポート固有の値が追加されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドでは、DSP チャンネル、コールの開始時刻、コールの終了時刻、コールに使用されるコントローラのチャンネルを含む、CSM に関連する情報が表示されます。

**show csm modem** コマンドを使用すると、特定のモデム、モデムグループ、またはすべてのモデムの CSM コール統計を表示できます。 *slot / port* 引数を指定した場合は、指定したそのモデムの CSM コール統計が表示されます。 *modem-group-number* 引数を指定した場合は、そのモデムグループに関連付けられているすべてのモデムの CSM コール統計が表示されます。キーワードを指定しなかった場合、Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバー上のすべてのモデムの CSM コール統計が表示されます。

特定の DSP チャンネルの CSM 統計を表示するには、**show csm voice** コマンドを使用します。 *slot / dsp / dsp / dsp-channel* 引数または *shelf / slot / port* 引数を指定した場合は、特定した DSP チャンネルを使用しているコールの CSM コール統計が表示されます。引数を指定しなかった場合、すべての DSP チャンネルのすべての CSM コール統計が表示されます。

## 例

次に、Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバーに対して **show csm** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show csm voice 2/4/4/0
 slot 2, dspm 4, dsp 4, dsp channel 0,
 slot 2, port 56, tone, device_status(0x0002): VDEV_STATUS_ACTIVE_CALL.
 csm_state(0x0406)=CSM_OC6_CONNECTED, csm_event_proc=0x600E2678, current call thru PRI
 line
 invalid_event_count=0, wdt_timeout_count=0
 wdt_timestamp_started is not activated
 wait_for_dialing:False, wait_for_bchan:False
 pri_chnl=TDM_PRI_STREAM(s0, u0, c22), tdm_chnl=TDM_DSP_STREAM(s2, c27)
 dchan_idb_start_index=0, dchan_idb_index=0, call_id=0xA003, bchan_num=22
 csm_event=CSM_EVENT_ISDN_CONNECTED, cause=0x0000
 ring_no_answer=0, ic_failure=0, ic_complete=0
 dial_failure=0, oc_failure=0, oc_complete=3
 oc_busy=0, oc_no_dial_tone=0, oc_dial_timeout=0
 remote_link_disc=0, stat_busyout=0
 oobp_failure=0
 call_duration_started=00:06:53, call_duration_ended=00:00:00, total_call_duration=00:00:44
 The calling party phone number = 408
 The called party phone number = 5271086
 total_free_rbs_timeslot = 0, total_busy_rbs_timeslot = 0, total_dynamic_busy_rbs_timeslot
 = 0, total_static_busy_rbs_timeslot = 0,
 total_sw56_rbs_timeslot = 0, total_sw56_rbs_static_bo_ts = 0,
 total_free_isdn_channels = 21, total_busy_isdn_channels = 0, total_auto_busy_isdn_channels
 = 0,
 min_free_device_threshold = 0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 28: **show csm voice** のフィールドの説明

フィールド	説明
slot	VFC が設置されているスロット。
dsp	当該コールを確立する DSP。

フィールド	説明
slot/port	<p>当該デバイスの論理ポート番号。これは DSP のチャンネル番号に相当します。ポート番号は次のように導出できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• (dspm あたりの 最大 dsp チャンネル数=12) * dspm 番号 (0 ベース) +</li><li>• (dsp あたりの 最大 dsp チャンネル数=2) * dsp 番号 (0 ベース) + dsp チャンネル番号 (0 ベース)。</li></ul>
tone	<p>使用されているシグナリングトーン (DTMF、MF、R2)。これは CAS コールにのみ適用されます。表示される可能性のある値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• mf</li><li>• dtmf</li><li>• r2-compelled</li><li>• r2-semi-compelled</li><li>• r2-non-compelled</li></ul>

フィールド	説明
device_status	<p>デバイスのステータスです。表示される可能性のある値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• VDEV_STATUS_UNLOCKED -- デバイスがロックされていません（つまり、新しいコールに使用可能な状態です）。</li> <li>• VDEV_STATUS_ACTIVE_WDT -- デバイスがコールに割り当てられていて、ウォッチドッグタイマーでセントラルオフィスからの接続応答の時間を計測するよう設定されています。</li> <li>• VDEV_STATUS_ACTIVE_CALL -- デバイスはアクティブな接続済みコールに対応中です。</li> <li>• VDEV_STATUS_BUSYOUT_REQ -- デバイスはビジーアウトの要求を受けました。音声デバイスには適用されません。</li> <li>• VDEV_STATUS_BAD -- デバイスは不良とマークされ、コールの処理に使用できません。</li> <li>• VDEV_STATUS_BACK2BACK_TEST -- モデムがバックツーバックテストを実行中です（モデムコールの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_RESET -- モデムをリセットする必要があります（モデムの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_DOWNLOAD_FILE -- モデムがファイルをダウンロード中です（モデムの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_DOWNLOAD_FAIL -- モデムがファイルのダウンロード中に失敗しました（モデムの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_SHUTDOWN -- モデムの電源が入っていません（モデムの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_BUSY -- モデムがビジー状態です（モデムの場合のみ）。</li> <li>• VDEV_STATUS_DOWNLOAD_REQ -- モデムが接続を要求しています（モデムの場合のみ）。</li> </ul>

フィールド	説明
csm_state	

フィールド	説明
	<p>このデバイスに関連付けられている現在のコール（PRI回線）の CSM コール状態。表示される可能性のある値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CSM_IDLE_STATE -- デバイスがアイドル状態です。</li> <li>• CSM_IC_STATE -- デバイスが着信コールに割り当てられています。</li> <li>• CSM_IC1_COLLECT_ADDR_INFO -- デバイスが、このコールで ANI/DNIS アドレスの収集を実行するデバイスとして選択されています。ANI/DNIS アドレス情報の収集を実行中です。ANI/DNIS は、コールをモデムまたは音声 DSP のどちらかで処理するか決定するために使用されます。</li> <li>• CSM_IC2_RINGING -- この着信コールに割り当てられたデバイスは、コールへの準備を開始するよう指示を受けました。</li> <li>• CSM_IC3_WAIT_FOR_SWITCH_OVER -- ANI/DNIS アドレス情報を収集しているデバイスから、この着信コールを引き継ぐための新しいデバイスが選択されました。</li> <li>• CSM_IC4_WAIT_FOR_CARRIER -- このコールは、キャリアからの CONNECT メッセージを待っています。</li> <li>• CSM_IC5_CONNECTED -- この着信コールはセントラルオフィスに接続済みです。</li> <li>• CSM_IC6_DISCONNECTING -- この着信コールは、切断プロセスを完了するため、VTSP モジュールからの DISCONNECT メッセージを待っています。</li> <li>• CSM_OC_STATE -- 発信コールが開始されました。</li> <li>• CSM_OC1_REQUEST_DIGIT -- デバイスがダイヤルアウト番号の最初の 1 桁を要求しています。</li> <li>• CSM_OC2_COLLECT_1ST_DIGIT -- ダイヤルアウト番号の最初の 1 桁が収集されました。</li> <li>• CSM_OC3_COLLECT_ALL_DIGIT -- ダイヤルアウト番号のすべての桁が収集されました。</li> <li>• CSM_OC4_DIALING -- このコールは、dsx0（B チャネル）がダイヤルアウトに使用可能な状態になるのを待機しています。</li> <li>• CSM_OC5_WAIT_FOR_CARRIER -- この（発信）コールは、セントラルオフィスの接続を待っています。</li> <li>• CSM_OC6_CONNECTED -- この（発信）コールは接続済み</li> </ul>

フィールド	説明
	<p>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CSM_OC7_BUSY_ERROR -- 話中音がこのデバイスに送信され（VoIP コールの場合、話中音は送信されず、VTSP モジュールに DISCONNECT INDICATION メッセージのみ送信されます）、このコールは切断プロセスを完了するため、VTSP モジュールからの DISCONNECT メッセージ（またはモデムからの ONHOOK メッセージ）を待機中です。</li> <li>• CSM_OC8_DISCONNECTING -- セントラルオフィスがこの（発信）コールを切断済みであり、このコールは切断プロセスを完了するため、VTSP モジュールからの DISCONNECT メッセージを待機中です。</li> </ul>
csm_state: invalid_event_count	CSM ステートマシンが受信した無効なイベントの数。
wdt_timeout_count	このコールでウォッチドッグタイマーがアクティブ化された回数。
wdt_timestamp_started	このコールでウォッチドッグタイマーがアクティブになっているかどうか。
wait_for_dialing	この（発信）コールが、空き番号コレクターが発信番号のダイヤルアウトに利用可能な状態になるのを待機中かどうか。
wait_for_bchan	この（発信）コールが、Bチャンネルからの呼び出し送信を待っているかどうか。
pri_chnl	PRI 接続に使用される TDM ストリームのタイプ。PRI コールと CAS コールの場合は、常に TDM_PRI_STREAM に設定されます。
tdm_chnl	このコールの処理に使用されるデバイスへの接続に使用される TDM ストリームのタイプ。VoIP コールの場合は、常に TDM_DSP_STREAM に設定されます。
dchan_idb_start_index	空き D チャンネルの次の IDB を検索するとき使用する最初のインデックス。
dchan_idb_index	空き D チャンネルで現在利用可能な IDB のインデックス。
csm_event	CSM ステートマシンに転送されたばかりのイベント。
cause	イベントの原因。
無応答	応答がなかったためにコールが失敗した回数。
ic_failure	失敗した着信コールの数。

フィールド	説明
ic_complete	成功した着信コールの数。
dial_failure	ダイヤルトーンがなかったために接続に失敗した回数。
oc_failure	失敗した発信コールの数。
oc_complete	成功した発信コールの数。
oc_busy	ビジー信号が発信されたために接続に失敗した発信コールの数。
oc_no_dial_tone	ダイヤルトーンがなかったために接続に失敗した発信コールの数。
oc_dial_timeout	タイムアウト値を超えたために接続に失敗した発信コールの数。
call_duration_started	このコールの開始時点。
call_duration_ended	このコールの終了時点。
total_call_duration	このコールの継続時間。
The calling party phone number	ISDN から CSM に送信された発信者番号。
The called party phone number	ISDN から CSM に送信された着信側番号。
total_free_rbs_time slot	システム全体で利用可能な空き RBS (CAS) タイムスロットの合計数。
total_busy_rbs_time slot	ビジーアウトされた RBS (CAS) タイムスロットの合計数。これには、動的にビジーアウトされた RBS タイムスロットと静的にビジーアウトされた RBS タイムスロットの両方が含まれます。
total_dynamic_busy_rbs_time slot	動的にビジーアウトされた RBS (CAS) タイムスロットの合計数。
total_static_busy_rbs_time slot	静的にビジーアウトされた (つまり CLI コマンドを使用してビジーアウトされた) RBS (CAS) タイムスロットの合計数。
total_free_isdn_channels	空き ISDN チャンネルの合計数。
total_busy_isdn_channels	ビジー状態の ISDN チャンネルの合計数。
total_auto_busy_isdn_channels	自動的にビジーアウトされた ISDN チャンネルの合計数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show call active voice</b>	アクティブコールテーブルの内容を表示します。

コマンド	説明
<b>show call history voice</b>	コール履歴テーブルの内容を表示します。
<b>show num-exp</b>	番号拡張の設定内容を表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

## show csm call

コールスイッチングモジュール (CSM) のコール統計を表示するには、特権 EXEC モードで `show csm call` コマンドを使用します。

`show csm call {failed | rate | total}`

構文の説明	<b>failed</b>	過去 60 秒間、60 分間、および 72 時間の CSM コール失敗率/拒否率。
	<b>rate</b>	過去 60 秒間、60 分間、および 72 時間の CSM コールレート。
	<b>total</b>	過去 60 秒間、60 分間、および 72 時間の合計 CSM コール数。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(2)T	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、CSM コール量を把握できます。

例 次の例は、過去 60 秒間の CSM コール統計を表示したものです。

```
Router# show csm call rate

15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...
      0  5  0  5  0  5  0  5  0  5
      CSM call switching rate per second (last 60 seconds)
      # = calls entering the module per second

Router# show csm call failed
```

```

15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...
      0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5
      CSM call fail/reject rate per second (last 60 seconds)
      # = calls failing per second

```

Router# sh csm call total

```

1344
1244
1144
1044
944
844
744
644
544
444
344
244
144
44
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...
      0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5
      CSM total calls (last 60 seconds)

```

# = number of calls

フィールドの説明は自明のため省略します。

## show cube debug category codes

Cisco Unified Border Element のデバッグカテゴリコード情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show cube debug category codes** コマンドを使用します。

### show cube debug category codes

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
コマンドモード	ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)
コマンド履歴	リリース 変更内容 15.3(3)M このコマンドが導入されました。

### 例

```
Device# show cube debug category codes
-----
| show cube debug category codes values.
-----
| Indx | Debug Name          | Value
-----
| 01 | SDP Debugs         | 1
| 02 | Audio Debugs       | 2
| 03 | Video Debugs       | 4
| 04 | Fax Debugs         | 8
| 05 | SRTP Debugs        | 16
| 06 | DTMF Debugs        | 32
| 07 | SIP Profiles Debugs | 64
| 08 | SDP Passthrough Deb | 128
| 09 | Transcoder Debugs  | 256
| 10 | SIP Transport Debugs | 512
| 11 | Parse Debugs       | 1024
| 12 | Config Debugs      | 2048
| 13 | Control Debugs     | 4096
| 14 | Miscellaneous Debugs | 8192
| 15 | Supp Service Debugs | 16384
| 16 | Misc Features Debugs | 32768
| 17 | SIP Line-side Debugs | 65536
| 18 | CAC Debugs         | 131072
| 19 | Registration Debugs | 262144
-----
```

# show cube status

Cisco Unified Border Element (CUBE) のステータス、ソフトウェアバージョン、ライセンスキャパシティ、イメージバージョン、およびデバイスのプラットフォーム名を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show cube status** コマンドを使用します。

## show cube status

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r より前のリリースでは、**mode border-element** コマンドでライセンスキャパシティを設定しない限り、CUBE のステータスは表示されませんでした。

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r 以降、ライセンスキャパシティ設定への依存が取り除かれました。

### コマンド モード

ユーザー EXEC (>)

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2 および Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a	このコマンドが変更され、Cisco Smart Licensing Using ポリシーをサポートするようになりました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	<b>mode border-element license capacity sessions</b> コマンドへの依存が取り除かれました。出力内容から Licensed-Capacity およびブロックされたコールの情報が除外されました。
15.1(3)S1	このコマンドが変更されました。  出力が変更され、サーバーおよびユーザーエージェントの Session Initiation Protocol (SIP) ヘッダーに、トークン文字 (英数字、ハイフン (-)、ドット (.)、感嘆符 (!)、パーセント (%)、アスタリスク (*)、アンダースコア (_)、プラス記号 (+)、重アクセント記号 (´)、アポストロフィ (') またはチルダ (~)) のみが含まれるようになりました。イメージ名に含まれる非トークン文字は、ドット (.) に置き換えられます。
15.2(1)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r より前のリリースでは、**mode border-element** コマンドでコールライセンスキャパシティが設定されている場合にのみ、CUBE ステータスの表示が有効化されました。ライセンスキャパシティが設定されていない場合、**show cube status** コマンドでは次のメッセージが表示されます。

```
Cisco Unified Border Element (CUBE) application is not enabled
```

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r 以降は、**mode border-element license capacity sessions** コマンドを設定しなくても CUBE ステータスの表示が有効になります。Licensed-Capacity およびブロックされたコールの情報は、出力内容から除外されました。

CUBE ステータス情報は、CISCO-UBE-MIB MIB で Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用して取得することもできます。

例

#### 例 - Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r より前のリリース

次の例は、**mode border-element** コマンドでコールライセンス キャパシティを設定し、Cisco 3845 ルータの CUBE ステータス表示を有効にしたものです。

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# mode border-element license capacity 200
```

設定を保存し、デバイスをリロードした後の出力は次のとおりです。

```
Device> show cube status

CUBE-Version : 11.0.0
SW-Version : 15.5(2)T, Platform 3845
HA-Type : none
Licensed-Capacity : 200
```

Cisco IOS リリース 15.1(3)S1 以降のリリースでは、出力は次のようになります。

```
Device> show cube status

CUBE-Version : 8.8
SW-Version : 15.2.1.T, Platform 3845
HA-Type : none
Licensed-Capacity : 200
```

#### 例 - Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r 以降のリリース

Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r 以降、出力は次のようになります。

```
Device> show cube status

CUBE-Version : 12.7.0
SW-Version : 16.12.20191014.105214, Platform CSR1000V
HA-Type : hot-standby-chassis-to-chassis
```

例

次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

表 29: *show cube status* のフィールドの説明

フィールド	説明
CUBE-Version	当該デバイスで実行中の CUBE アプリケーションのバージョン。
SW-Version	CUBE アプリケーションを実行しているデバイスのイメージバージョンおよびプラットフォーム名。ここで表示される出力は、 <b>show version</b> コマンドで表示されるイメージバージョンおよびプラットフォーム名と一致します。

フィールド	説明
HA-Type	<p>デバイスで設定済みかつ実行中の高可用性 (HA) 機能のタイプ。サポートされている HA タイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• none : CUBE は HA をサポートしていません。</li> <li>• cold-standby-chassis-to-chassis : デバイス間のコールドスタンバイのサポート。</li> <li>• hot-standby-chassis-to-chassis : デバイス間のホットスタンバイのサポート。</li> </ul>
Licensed-Capacity	<p>(注) Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r 以降、Licensed-Capacity およびブロックされたコールの情報は、出力に表示されなくなりました。</p> <p>ライセンス上 CUBE が使用できる SIP コールレグ数。範囲は 1 ~ 999999 です。この数は、<b>mode border-element license capacity</b> コマンドで設定されたライセンス数と一致します。</p> <p>(注) Cisco IOS リリース 15.2(1)T では、CUBE が使用できる SIP コールレグ数はプラットフォームに依存し、<b>capacity</b> キーワードで指定された値の影響を受けません。</p>

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>mode border-element</b>	Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズの各プラットフォームでの Border Element 設定で使用する一連のコマンドを有効にします。

# show debug condition

VoiceXML アプリケーション、ATM 対応インターフェイス、またはフレームリレーインターフェイスで有効になっているデバッグフィルタを表示するには、特権 EXEC モードで **show debug condition** コマンドを使用します。

## show debug condition

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.0(28)S	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(28)S に統合され、出力内容が拡張されて ATM 対応インターフェイスおよびフレームリレー対応インターフェイスに設定されたデバッグが表示されるようになりました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(25)S に統合されました。
12.2(27)SBC	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(27)SBC に統合されました。
12.2(28)SB	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(28)SB に統合されました。
12.4(9)T	このコマンドの出力内容が拡張され、ATM 対応インターフェイスおよびフレームリレー対応インターフェイスに設定されたデバッグが表示されるようになりました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、**debug condition application voice** コマンドで VoiceXML アプリケーションに設定されたデバッグフィルタ条件を表示できます。

### 例

次に、VoiceXML アプリケーションに対してこのコマンドを使用した場合の出力例を示します。

```
Router# show debug condition
Condition 1: application voice vmail (1 flags triggered)
           Flags: vmail
Condition 2: application voice myappl (1 flags triggered)
           Flags: myappl
```

次に、ATM インターフェイスのデバッグ中にこのコマンドを使用した場合の出力例を示します。

```
Router# show debug condition
```

```
Condition 1: atm-vc 0/56784 AT2/0 (0 flags triggered)
Condition 2: atm-vc 255/45546 AT2/0 (0 flags triggered)
Condition 3: atm-vc 0/266 AT6/0 (1 flags triggered)
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 30: *show debug condition* のフィールドの説明

フィールド	説明
Condition 1	特定のコマンドに設定されたフィルタ条件を識別する連番。
Flags	当該条件が設定されている音声アプリケーションの名前。
at2/0	当該デバッグ条件が適用されている ATM インターフェイスのインターフェイス番号。
atm-vc 0/56784	仮想チャネル識別子 (VCI)。または、仮想パス識別子/仮想チャネル識別子 (VCI/VPI) の組み合わせ。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug condition application voice</b>	指定したアプリケーションを除くすべての VoiceXML アプリケーションのデバッグメッセージを除外して表示します。
<b>debug http client</b>	HTTP クライアントに関するデバッグメッセージを表示します。
<b>debug vxml</b>	VoiceXML 機能のデバッグメッセージを表示します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。